



Informatica® Multidomain MDM
10.4 HotFix 1

リリースガイド

Informatica Multidomain MDM リリースガイド

10.4 HotFix 1

2020 年 11 月

© 著作権 Informatica LLC 2001, 2021

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、および ActiveVOS は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2021-05-10

目次

序文	7
Informatica のリソース.....	7
Informatica Network.....	7
Informatica ナレッジベース.....	7
Informatica マニュアル.....	7
Informatica 製品可用性マトリックス.....	8
Informatica Velocity.....	8
Informatica Marketplace.....	8
Informatica グローバルカスタマサポート.....	8
 第 I 部 : バージョン 10.4	9
 第 1 章 : 特記事項、新機能、変更内容 (10.4 HotFix 1)	10
特記事項 (10.4 HotFix 1)	10
サポートの変更.....	10
新機能 (10.4 HotFix 1)	12
[バンドルの移行] ボタン.....	12
階層ウィジェットコンポーネント.....	12
ActiveVOS のプロパティ.....	13
Hub サーバーのプロパティ.....	13
Oracle Configuration Manager	13
認証 REST API.....	13
変更内容 (10.4 HotFix 1)	14
Elasticsearch 6.8.6 のサポート.....	14
[履歴] ビュー.....	14
有効期間ビュー.....	14
[階層] ビュー.....	15
 第 2 章 : 特記事項、新機能、変更内容 (10.4)	16
特記事項 (10.4)	16
サポートの変更.....	16
新機能 (10.4)	18
階層関係.....	18
ネットワークリレーション.....	19
チャートコンポーネント.....	19
プロビジョニングツールでの一致ルールセットの作成.....	20
複数タスクの管理.....	21
複数レコードの値の検索と置換.....	21
新規レコードのインポート.....	21
新規レコードと既存レコードのマッチング.....	22

タスクレビュープロセスのトリガ.	22
カスタム Elasticsearch インデックス設定.	23
検索フィルタ表示.	23
ビジネスエンティティ、レコード、およびリレーションのアイコンと色.	24
追加ページ.	24
ビジネスエンティティビューのハイパーリンク.	25
インストーラの改良点.	25
Hub サーバーのプロパティ.	25
プロセスサーバーのプロパティ.	28
変更点 (10.4)	28
Elasticsearch インストーラ.	28
アプリケーションエディタ.	28
検索可能なフィールドオプション.	28
検索クエリ結果オプション.	28
Hub コンソールの起動.	29
通信プロトコル.	29
外部ビジネスエンティティサービス呼び出しと外部アプリケーション.	29
マージ解除.	29
Hub サーバーの廃止されたプロパティ.	30
プロセスサーバーの廃止されたプロパティ.	30
REST API.	30

第 II 部 : バージョン 10.3. 31

第 3 章 : 新機能と変更 (10.3 HotFix 3) 32

特記事項.	32
サポートの変更.	32
新機能 (10.3 HotFix 3)	33
バンドルの移行.	33
Hub サーバーのプロパティ.	33
変更内容 (10.3 HotFix 3)	33
Elasticsearch インストーラ.	33
Elasticsearch 6.8.6 のサポート.	33
履歴ビュー.	33
有効期間ビュー.	34
[階層] ビュー.	35

第 4 章 : 新機能と変更 (10.3 HotFix 2) 36

新機能 (10.3 HotFix 2)	36
[一致したレコード] ビューでの複数レコードの選択.	36
検索結果での保留中レコードアイコン.	37
Informatica Address Doctor バージョン 5.16.	37
変更内容 (10.3 HotFix 2)	37

改良されたデータベース読み取りクレンジング関数.	37
特殊文字を使用したクエリ検索.	37
Oracle データベースへの SSL 接続.	38
スマート検索での最新の検索エンティティの保存.	38
Java 仮想マシンの設定.	38
データ暗号化.	39
第 5 章 : 新機能と変更 (10.3 HotFix 1)	40
Oracle Database 18c のサポート.	40
Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.1 のサポート.	40
IBM WebSphere バージョン 9.0 Fix Pack 10 のサポート.	41
JBoss 用 Red Hat OpenJDK 8 のサポート.	41
Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5 のサポート.	41
日付形式.	41
ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのコピー.	42
カスタムタスクアクションメッセージ.	43
プロビジョニングツールパフォーマンスの向上.	43
メッセージトリガの拡張.	43
保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張.	43
Hub サーバーのプロパティ.	44
グローバルプロパティ.	44
Solr を使用したスマート検索用 Java 仮想マシンの設定 (JBoss 向け)	45
変更内容 (10.3 HotFix 1)	45
タスクインボックス.	45
関連レコードコンポーネント.	46
リソースキット変更.	46
第 6 章 : 新機能と変更点 (10.3)	47
MDM Multidomain Edition は Multidomain MDM に.	47
ビジネスエンティティを使用する Data Director の新機能.	47
ビジネスエンティティの検索とクエリ.	47
更新後の Data Director のルックアンドフィール.	48
Data Director のローカリゼーション.	49
レコードビューのレイアウト.	50
類似するレコードコンポーネント.	51
[一致するレコード] ビュー.	51
[相互参照レコード] ビュー.	52
タスクマネージャ.	52
マージタスク.	52
レコードへのファイルの添付.	52
タスクへのファイルの添付.	52
タスクのコメントと添付.	53
ビジネスエンティティのセキュリティ.	53

サブジェクト領域を使用する Data Director の新機能.	55
更新後の Data Director のルックアンドフィール.	55
タスクへのファイルの添付.	56
バージョン 10.3 で導入された Hub サーバーのプロパティ.	57
バージョン 10.3 で導入されたプロセスサーバーのプロパティ.	58
グローバルプロパティ.	59
変更点 (10.3)	59
用語の変更.	59
Apache Solr を使用した検索の廃止.	59
タスクインボックス.	60
タスクマネージャ.	60
リソースキット.	60

序文

Informatica^(R) *Multidomain MDM* のリリースガイドを読んで、新機能と改良点、バージョン間の動作の変更、サポートの変更について確認してください。リリースガイドには、以前のバージョンからアップグレードした後に完了する必要があるタスクに関する情報も含まれています。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。

パート I: バージョン 10.4

この部には、以下の章があります。

- [特記事項、新機能、変更内容（10.4 HotFix 1）, 10 ページ](#)
- [特記事項、新機能、変更内容（10.4）, 16 ページ](#)

第 1 章

特記事項、新機能、変更内容 (10.4 HotFix 1)

この章では、以下の項目について説明します。

- [特記事項 \(10.4 HotFix 1\)](#) , 10 ページ
- [新機能 \(10.4 HotFix 1\)](#) , 12 ページ
- [変更内容 \(10.4 HotFix 1\)](#) , 14 ページ

特記事項 (10.4 HotFix 1)

サポートの変更

ここでは、バージョン 10.4 HotFix 1 のサポートの変更点について説明します。

Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.6 のサポート

Informatica Multidomain MDM 10.4 HotFix 1 では、ActiveVOS バージョン 9.2.4.6 のみがサポートされています。

以前のバージョンの Multidomain MDM からアップグレードした場合は、ActiveVOS バージョン 9.2.4.6 がインストールされていることを確認してください。

Zero Downtime アップグレードのサポートの再開

バージョン 10.4 HotFix 1 では、バージョン 10.4 で一時的に使用できなかった Zero Downtime (ZDT) アップグレードのサポートが再開されました。

ZDT アップグレードは、Multidomain MDM をアップグレードする際の中断を最小限に抑えます。詳細については、使用中のデータベース用の『*Multidomain MDM Zero Downtime アップグレードガイド*』を参照してください。

ダウン時間ゼロの Data Replication の遅延

バージョン 10.4 HotFix 1 では、ダウン時間ゼロの環境で Multidomain MDM をアップグレードすると、ソースシステムからターゲットシステムへの Data Replication が 60 秒遅延します。

この遅延は、ソースシステムとターゲットシステムが別々の環境にインストールされている場合にのみ、複製された最初のレコードにのみ適用されます。

Adobe Flash Player のサポート

バージョン 10.4 HotFix 1 では、サブジェクト領域を使用する Informatica Data Director に Adobe Flash Player は不要になりました。

Adobe Flash Player のサポートは廃止されています。Adobe は、2020 年末に Flash Player のサポートを終了すると発表しました。

サブジェクト領域を使用する Data Director の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.4 HotFix 1 Data Director User Guide*』を参照してください。

Informatica Platform ステージングのサポート終了

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、データ統合サービスを使用した Informatica Platform ステージングのサポートは終了します。

Informatica Data Controls のサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、サブジェクト領域を使用する Data Director 用の Informatica Data Controls (IDC) のサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースで IDC のサポートを削除する予定です。

BPM アダプタ SDK のサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、BPM アダプタソフトウェア開発キット (SDK) のサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでこの SDK のサポートを削除する予定です。

IDC での [履歴] ビューのサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、Informatica Data Controls の [履歴] ビューのサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースで [履歴] ビューのサポートを削除する予定です。

MDM Hub クレンジングマップのサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、MDM Hub クレンジングマップのサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでクレンジングマップのサポートを削除する予定です。

クレンジングリストのサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、MDM Hub クレンジングリストのサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでクレンジングリストのサポートを削除する予定です。

カスタムボタンのサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、カスタムボタンのサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでカスタムボタンのサポートを削除する予定です。

カスタム Java クレンジング関数のサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、MDM Hub のカスタム Java クレンジング関数のサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでカスタム Java クレンジング関数のサポートを削除する予定です。

[1 回だけ一致させる] のサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、MDM Hub の [1 回だけ一致させる] プロパティのサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでこのプロパティのサポートを削除する予定です。

[以前の行 ID オブジェクトのみ一致させる] のサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、MDM Hub の [以前の行 ID オブジェクトのみ一致させる] プロパティのサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでこのプロパティのサポートを削除する予定です。

プロセスビューのサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、MDM Hub プロセスビューのサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでプロセスビューのサポートを削除する予定です。

データスチュワードワークベンチのサポート廃止

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、MDM Hub コンソールのデータスチュワードワークベンチツールのサポートは廃止されます。Informatica は、今後のリリースでデータスチュワードワークベンチツールのサポートを削除する予定です。

データスチュワードワークベンチは、次のツールで構成されています。

- データマネージャ
- マージマネージャ
- 階層マネージャ

新機能（10.4 HotFix 1）

[バンドルの移行] ボタン

Data Director コンフィギュレーションマネージャの [バンドルの移行] ボタンによって、サブジェクト領域に属し、ビジネスエンティティレコードに移行されるレコードのメタデータをローカライズします。

バンドルの移行の詳細については、『Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 HotFix 1 Data Director コンフィギュレーションマネージャガイド』を参照してください。

階層ウィジェットコンポーネント

Data Director ダッシュボードの階層ウィジェットコンポーネントには、レコードに関連するすべてのレコードが階層形式で表示されます。

プロビジョニングツールでデータの階層リレーションを定義することができます。

階層ウィジェットの設定に関する詳細については、『Informatica MDM バージョン 10.4 HotFix 1 プロビジョニングツールガイド』を参照してください。

ActiveVOS のプロパティ

MDM Multidomain 10.4 HotFix 1 Edition をインストールした後に、次の ActiveVOS プロパティを設定できます。

プロパティ名	説明
activevos.install.console	ActiveVOS コンソールを ActiveVOS サーバーにデプロイするかどうかを指定します。デフォルトは true です。false に設定した場合、ActiveVOS コンソールはインストールされません。
activevos.secure.https.only	ActiveVOS と MDM Hub 間の通信の保護を有効にします。すべての ActiveVOS HTTP トラフィックを強制的に HTTPS にリダイレクトします。デフォルトは false です。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 HotFix 1 インストールガイド*』を参照してください。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバーのプロパティを使用して、レコードを検証する時間を制御できます。

cmx.server.validate.lookup.timeline.onload

手動で追加する必要があります。ロードジョブの実行中にルックアップフィールドを検証するために必要な時間を指定します。デフォルトは false です。

cmxserver.properties および cmxcleanse.properties ファイルで Hub サーバーのプロパティを設定します。

Hub サーバーのプロパティの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 HotFix 1 Hub 設定ガイド*』を参照してください。

Oracle Configuration Manager

Hub コンソールは、Oracle Configuration Manager (OCM) をサポートしています。

OCM は、すべてのアプリケーションとデータベース間のトランザクションのデータを収集します。すべてのアプリケーション設定情報は OCM に保存されます。

OCM の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 HotFix 1 インストールガイド*』を参照してください。

認証 REST API

認証 REST API を使用することで、ユーザーが他の REST API を実行する前にユーザーを認証できます。

認証 REST API の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 HotFix 1 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

。

変更内容（10.4 HotFix 1）

Elasticsearch 6.8.6 のサポート

バージョン 10.4 HotFix 1 では、検索処理を行う場合には、Elasticsearch バージョン 6.8.6 が必要になります。

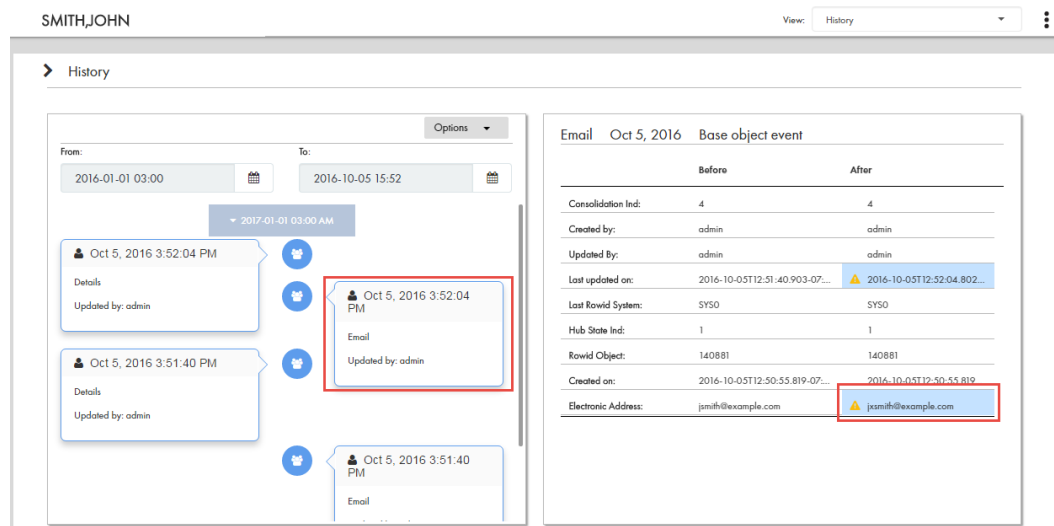
Elastic Search 6.8.6 のアップグレードの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.4 HotFix 1 Upgrade Guide*』を参照してください。

【履歴】 ビュー

バージョン 10.4 HotFix 1 では、Data Director には【履歴】ビュー用の新しいユーザーインターフェースが組み込まれ、Adobe Flash Player は不要となります。【履歴】ビューを使用して、レコードのデータの変更内容を確認できます。それぞれのデータの変更内容は、【履歴】ビューにイベントとして表示されます。

【履歴】ビューには、リレーションレコードの履歴は表示されません。

次の図は、Data Director の【履歴】ビューの新しいユーザーインターフェースを示しています。



【履歴】ビューの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.4 HotFix 1 Data Director User Guide*』を参照してください。

有効期間ビュー

バージョン 10.4 HotFix 1 以降、Data Director には【有効期間】ビュー用の新しいユーザーインターフェースが組み込まれ、Adobe Flash Player は不要となります。【有効期間】ビューを使用して、有効な日付を持つデータを調査できます。

【有効期間】ビューに、リレーションのタイムラインは表示されません。リレーションのタイムラインは、【階層】ビューのネットワークレイアウトに表示されます。

次の図に、Data Director の【有効期間】ビューの新しいユーザーインターフェースを示します。

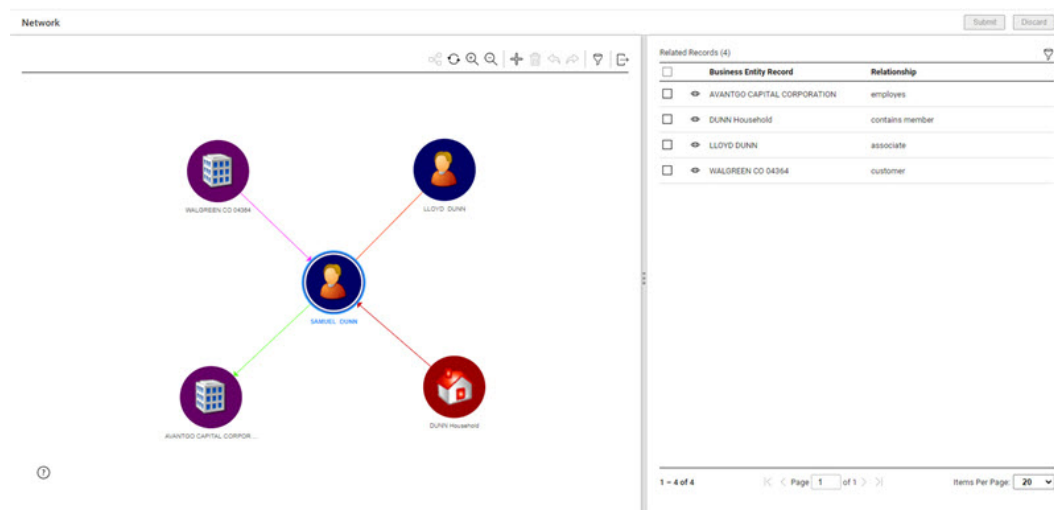
【有効期間】ビューの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.4 HotFix 1 Data Director User Guide*』を参照してください。

【階層】ビュー

バージョン 10.4 HotFix 1 では、【階層】ビューでレコードを開くと、ネットワークレイアウトにレコードとリレーションが表示されます。ネットワークレイアウトのユーザーインターフェースに、Adobe Flash Player は不要となりました。

ネットワークレイアウトを使用して、レコードのネットワークリレーションを表示、作成、管理します。有効日のネットワーク内のリレーションを表示することやネットワーク内のリレーションの表示/非表示を切り替えることができます。また、ネットワークグラフをエクスポートすることもできます。レコードとリレーションのレイアウトを変更することはできません。

次の図は、Data Director でのネットワークレイアウトを示しています。



ネットワークレイアウトの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.4 HotFix 1 Data Director User Guide*』を参照してください。

第 2 章

特記事項、新機能、変更内容 (10.4)

この章では、以下の項目について説明します。

- [特記事項 \(10.4\)](#) , 16 ページ
- [新機能 \(10.4\)](#) , 18 ページ
- [変更点 \(10.4\)](#) , 28 ページ

特記事項 (10.4)

サポートの変更

この節では、バージョン 10.4 のサポートの変更点について説明します。

Apache Solr を使用した検索のサポート終了

バージョン 10.4 では、Apache Solr を使用した検索のサポートを終了しました。Apache Solr を使用した検索を使用している場合は、Elasticsearch を使用した検索の使用を開始する必要があります。

Elasticsearch を使用した検索の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM* バージョン 10.4 設定ガイド』および<バージョン>からの『*Multidomain MDM* バージョン 10.4 のアップグレードのガイド』を参照してください。

オペレーティングシステムのサポート終了

バージョン 10.4 では、Oracle Solaris および HP-UX オペレーティングシステムのサポートを終了しました。Oracle Solaris または HP-UX を使用している場合は、サポート対象のオペレーティングシステムを使用する必要があります。

サポート対象のオペレーティングシステムの詳細については、Informatica Network の製品可用性マトリックスを参照してください。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>

Adobe Flash Player のサポート廃止

バージョン 10.4 では、Adobe Flash Player のサポートは廃止されました。Adobe は、2020 年末に Flash Player のサポートを終了すると発表しました。

Adobe Flash Player が必要なサブジェクト領域を使用する Data Director を使用している場合、ビジネスエンティティを使用する Data Director に移行することをお勧めします。

ビジネスエンティティを使用する Data Director への移行については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director 移行ガイド*』を参照してください。

サブジェクト領域を使用する Data Director のサポート廃止

サブジェクト領域を使用する Data Director のサポートは廃止されました。今後のリリースでは、サブジェクト領域を使用する Data Director のサポートは削除される予定です。

サブジェクト領域を使用する Data Director を使用している場合、ビジネスエンティティを使用する Data Director に移行することをお勧めします。

新規のお客様は、サブジェクト領域を使用する Data Director を使用しないでください。ビジネスエンティティを使用する Data Director を使用する必要があります。

ビジネスエンティティを使用する Data Director への移行については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director 移行ガイド*』を参照してください。

Informatica Platform ステージングのサポート廃止

バージョン 10.4 では、データ統合サービスを使用する Informatica Platform ステージングのサポートは廃止されました。今後のリリースでは、Informatica Platform ステージングのサポートも廃止される予定です。

Informatica Data Integration および Informatica Data Quality を使用して、データを MDM Hub ステージングテーブルに直接ロードできます。これには、ステージングテーブルへの変更を Informatica Data Integration および Informatica Data Quality リポジトリと手動で同期する必要があります。

Blowfish 暗号化のサポート廃止

バージョン 10.4 では、Blowfish 暗号化のサポートは廃止されました。今後のリリースでは、Blowfish 暗号化のサポートは削除される予定です。

Blowfish 暗号化は、セキュリティ証明書ベースの暗号化メカニズムに置き換えられました。証明書は、インストールおよびアップグレードプロセス中に生成されます。

API で Blowfish を使用してデータベースのパスワードを復号化する場合は、証明書ベースの暗号化メカニズムを使用するように API を更新することをお勧めします。

Zero Downtime (ZDT) アップグレードの保留サポート

バージョン 10.4 では、Multidomain MDM の認証モードが変更されたため、Zero Downtime (ZDT) アップグレードは保留され利用できません。

今後のリリースで、ZDT を使用したアップグレードを再開する予定です。ZDT モジュールを購入した場合は、ZDT が利用可能になるのを待ってからアップグレードすることをお勧めします。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

新機能（10.4）

階層関係

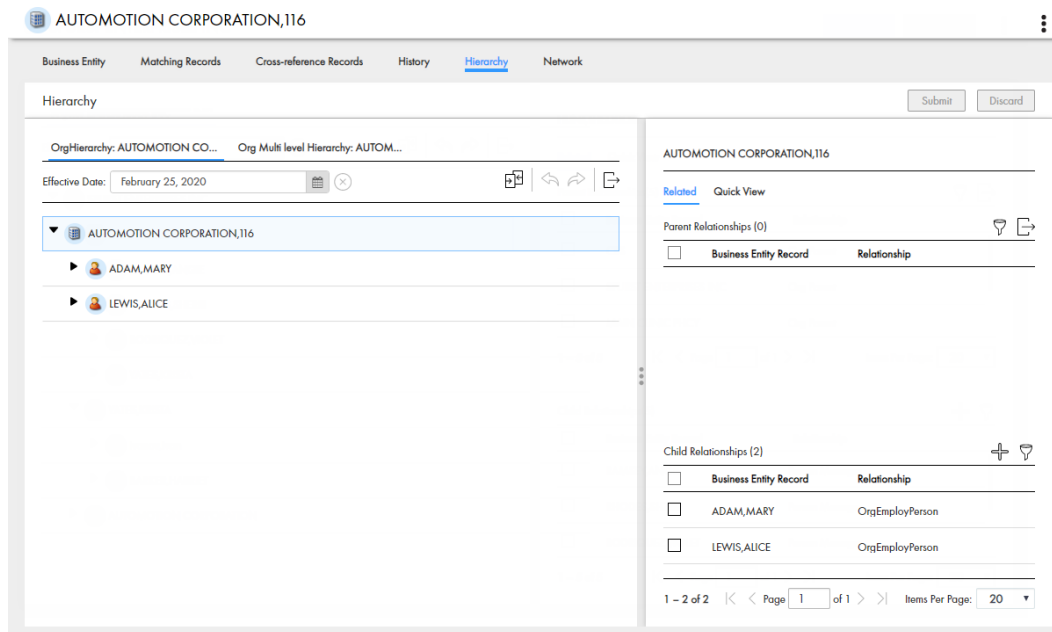
プロビジョニングツールでは、階層リレーションを作成して、ビジネスエンティティ間の階層リレーションを定義できます。次に、ビジネスエンティティ間に定義された階層リレーションを使用して、Data Director のレコード間の階層リレーションを設定します。

Data Director では、【階層】ビューを使用して、レコードの階層リレーションを表示、作成、管理します。有効日の階層のリレーションを表示できます。または、現在の階層を、有効日または履歴日の階層のバージョンと比較できます。階層をエクスポートすることもできます。

プロビジョニングツールでは、タスクとトリガを設定して、Data Director の階層への変更が承認ワークフローを確実に通過するようにすることができます。その後 Data Director で、承認のために変更を送信すると、確認者は変更を保存された階層と比較できます。

プロビジョニングツールでは、【階層】ビューの【クイックビュー】タブを設定することもできます。その後 Data Director で、タブを使用して階層内のレコードの詳細を表示できます。

次の図は、Data Director の【階層】ビューを示しています。



REST API を使用して階層リレーションにアクセスすることもできます。

Hub コンソールの階層マネージャでリレーションを持つ顧客をアップグレードするには、プロビジョニングツールを使用してリレーションをコピーし、それらを階層リレーションまたはネットワークリレーションとして作成します。次に、エンティティベースオブジェクトをベースオブジェクトに戻します。ベースオブジェクトに戻した後、プロビジョニングツールで新しい階層リレーションまたはネットワークリレーションを作成できます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のアップグレードガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

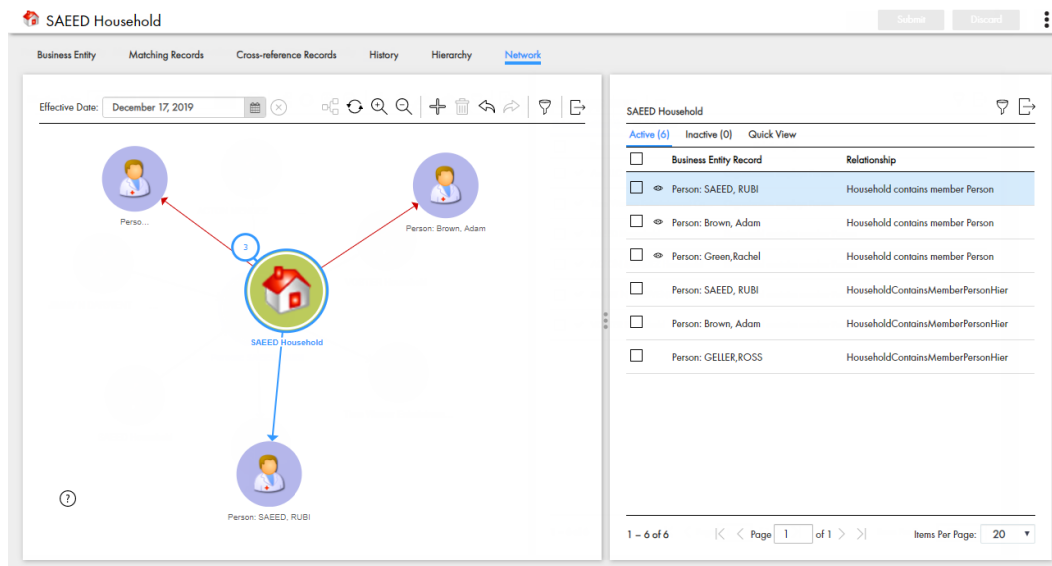
ネットワークリレーション

プロビジョニングツールでは、ネットワークリレーションを作成して、関連するビジネスエンティティ間のリレーションを定義できます。次に、ビジネスエンティティ間に定義されたネットワークリレーションを使用して、Data Director のレコード間のネットワークリレーションを設定します。

Data Director では、[ネットワーク] ビューを使用して、レコードのリレーションのネットワークを表示、作成、管理します。有効日のネットワーク内のリレーションを表示できます。または、ネットワーク内のリレーションを表示または非表示にすることができます。ネットワークグラフをエクスポートすることもできます。

プロビジョニングツールでは、[ネットワーク] ビューの [クイックビュー] タブを設定することができます。その後 Data Director で、タブを使用してネットワーク内のレコードの詳細を表示できます。

次の図は、Data Director の [ネットワーク] ビューを示しています。



REST API を使用してネットワークリレーションにアクセスすることもできます。

Hub コンソールの階層マネージャでリレーションを持つ顧客をアップグレードするには、プロビジョニングツールを使用してリレーションをコピーし、それらを階層リレーションまたはネットワークリレーションとして作成します。次に、エンティティベースオブジェクトをベースオブジェクトに戻します。ベースオブジェクトに戻した後、プロビジョニングツールで新しい階層リレーションまたはネットワークリレーションを作成できます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

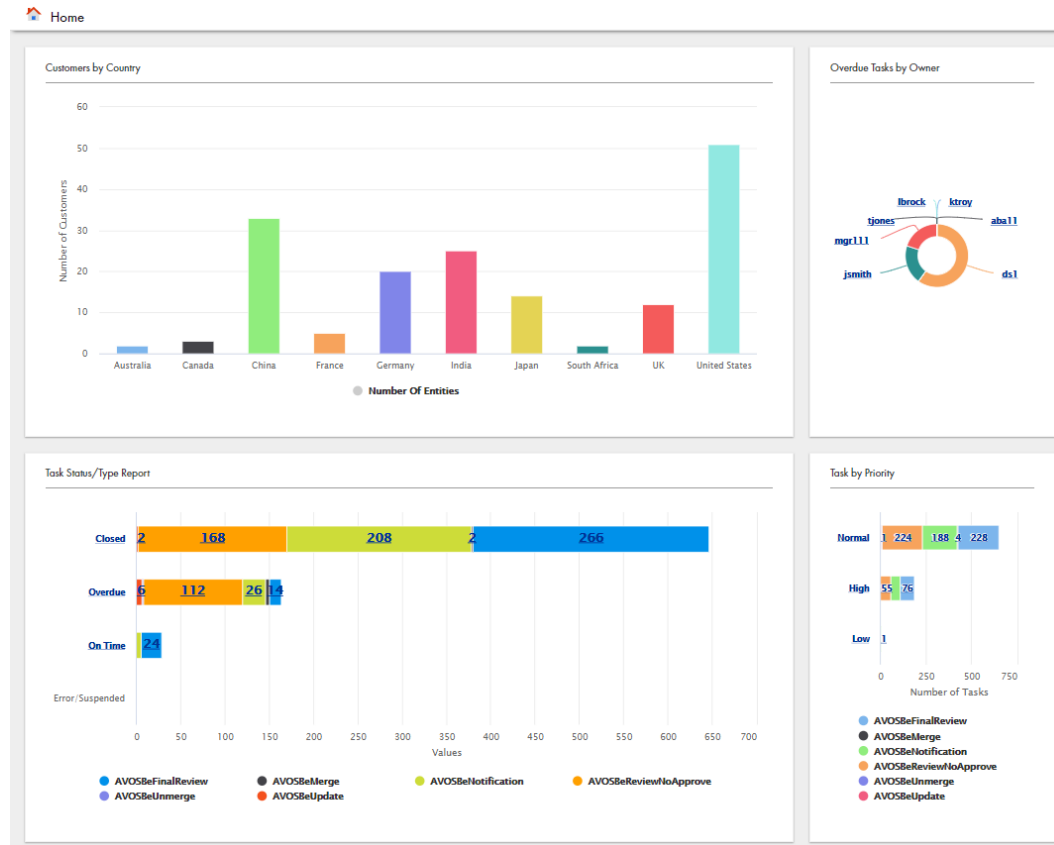
チャートコンポーネント

プロビジョニングツールでは、チャートコンポーネントを作成できます。チャートコンポーネントは、ビジネスエンティティのレコード、タスク、またはマスターデータについて収集したその他の種類の情報に関するデータをグラフィカルに表示します。

チャートコンポーネントを作成するときに、表示するチャートの外観とチャートの種類を設定します。デフォルトレポートまたはカスタムレポートから収集したデータをチャートに入力します。チャートで使用されるレポートデータをフィルタリングおよびグループ化できます。チャートのデータをドリルダウンチャートや、[クエリ] タブ、[検索] タブ、タスクマネージャなどの Data Director の別のインターフェースにリンクすることもできます。

カスタムホームページレイアウトまたは追加のページレイアウトを設計するときに、チャートコンポーネントを追加できます。ユーザーが Data Director でカスタムホームページまたは追加のページを表示すると、チャートが表示されます。

次の図は、チャートコンポーネントを含むサンプルのホームページを示しています。



REST API を使用して、デフォルトのレポートを操作し、カスタムレポートを作成することもできます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

プロビジョニングツールでの一致ルールセットの作成

プロビジョニングツールを使用して、サンプルデータセットと一致トレーニングに基づいて一致ルールセットを作成できます。

一致トレーニングプロセス中に、サンプルデータセットから一致するペアをいくつかレビューして、ペアが一致するかどうかを確認します。レビュー後、一致エンジンは信頼度スコアを含む一致ルールセットを作成します。一致信頼度スコアが低い場合は、一致信頼度スコアが高くなるまで一致エンジンを再トレーニングします。

プロビジョニングツールでの一致ルールセットの作成の詳細については、*Multidomain MDM のプロビジョニングツールガイド*を参照してください。

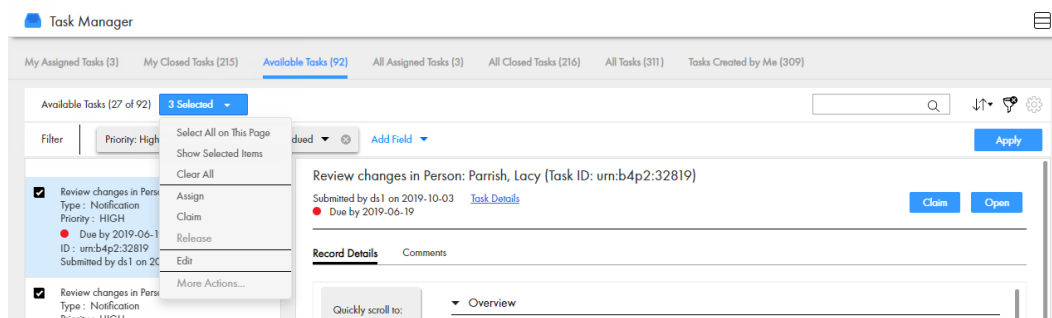
複数タスクの管理

Data Director では、タスク管理アクションを実行してタスクを管理できます。複数タスクを割り当て、クレーン、解放、または編集できます。また、承認、拒否、否認などのアクションを複数のタスクに対して実行することもできます。

実行できるタスク管理アクションは、ロールによって異なります。すべてのユーザーは、自分のユーザーロールで使用可能なタスクを管理できます。タスク管理者ロールを割り当てられたユーザーは、すべてのタスクを管理できます。タスク管理者ロールは、MDM Hub で作成してユーザーに割り当てた後、プロビジョニングツールで有効にすることができる新しい役割です。

フィルタまたは検索を使用して、管理するタスクを見つけることができます。例えば、John Smith のレコードに関連する優先度の高いタスクを見つけたい場合があります。

次の図は、タスクマネージャと実行可能なタスク管理アクションの例を示しています。



REST API を使用してタスクを管理することもできます。管理するタスクを見つけるには、タスクの一覧 API でクエリ検索パラメーターを使用できます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

複数レコードの値の検索と置換

Data Director では、レコード全体で複数の値を検索および置換することができます。例えば、性別 ID が記録されていないすべてのレコードを置換するとします。レコードを検索して、正しい性別で置き換えます。検索と置換操作により、確認ワークフローがトリガされ、承認タスクが作成されます。特権を持つユーザーは、タスクを承認する必要があります。

バルク編集を実行するには、ユーザーロールに検索-置換特権が必要です。複数の値を置き換えた後、ジョブを表示し、バルク編集の集計レポートをダウンロードします。

REST API を使用して、レコード全体の値を検索および置換することもできます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』と『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

新規レコードのインポート

Data Director では、Excel または CSV ソースファイルから新規データとリレーションを一括でインポートできます。Data Director は人工知能を使用して、ソースファイルフィールドを識別し、最適なターゲットフィールドにマッピングします。データをインポートまたは更新した後、**【マイジョブ】** 機能を使用して、インポートサマリレポートを表示およびダウンロードします。

REST API を使用して、新規データとリレーションを一括でインポートすることもできます。

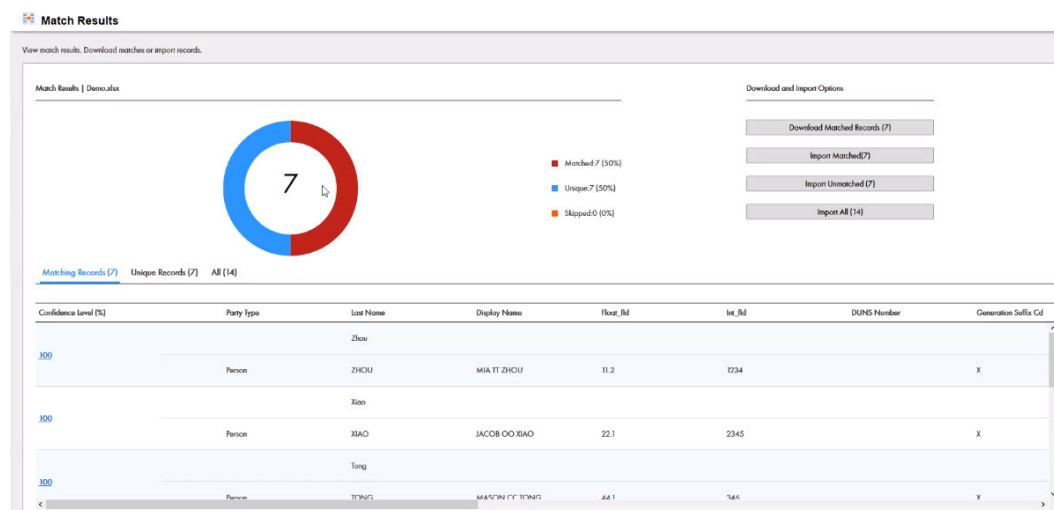
詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』と『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

新規レコードと既存レコードのマッチング

Data Director では、インポートしたレコードを既存のレコードと比較できます。一致プロセスは、一致したレコードと一致しないレコードを識別します。一致しないレコードをインポートしたり、レコードを削除したり、すべてのレコードをインポートしたりできます。

ファイルをインポートした後、Data Director は、一致したレコード、一意のレコード、スキップされたレコード、およびすべてのレコードを表示する一致結果を生成します。結果を確認して、インポートまたはダウンロードするレコードを決定できます。

次の図は、新しいレコードをインポートして既存のレコードと比較した後の一致結果の例を示しています。



REST API を使用してインポートしたレコードを照合することもできます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』と『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 のビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

タスクレビュープロセスのトリガ

ユーザーが新規レコードを更新およびインポートしたときにレビューワークフローをトリガするようにタスクを設定できます。ワークフローは、マネージャなどの権限を持つユーザーロールによって確認されます。プロビジョニングツールを使用して、レビューワークフローを設定します。

レコードの更新

ユーザーが Data Director のレコードを更新すると、変更によりレビュープロセスがトリガされます。変更に同意する場合は、レコードの更新を承認できます。

ユーザーが更新してレビューワークフローをトリガできるレコードの最大数を設定できます。例えば、ワークフローをトリガする新規レコードの数を 10 に設定します。ユーザーが 10 件以下のレコードを更新すると、レビューワークフローがトリガされます。ユーザーが 10 件を超えるレコードを更新しようとする、レビューワークフローはトリガされず、エラーメッセージが表示されます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

新規レコードのインポート

ユーザーが Data Director に新規レコードを含むファイルをインポートすると、変更によりレビュープロセスがトリガされます。変更に同意する場合は、新規レコードを承認できます。

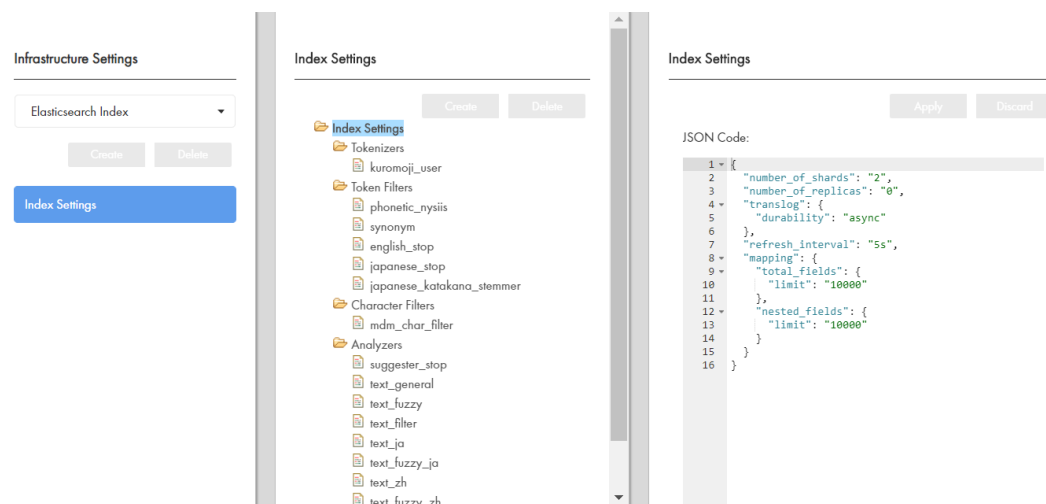
ユーザーがインポートしてワークフローをトリガできる新規レコードの最大数を設定できます。例えば、ワークフローをトリガする新規レコードの数を 5 に設定します。ユーザーが 5 件以下のレコードをインポートすると、レビューワークフローがトリガされます。ユーザーが 5 件を超えるレコードをインポートしようとする、レビューワークフローはトリガされず、エラーメッセージが表示されます。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

カスタム Elasticsearch インデックス設定

Informatica が提供する Elasticsearch インデックス設定が要件を満たしていない場合は、プロビジョニングツールを使用してカスタム Elasticsearch インデックス設定を作成します。Elasticsearch インデックスのカスタムアナライザ、トークナイザ、トークンフィルタ、および文字フィルタを設定できます。

次の図は、[インフラストラクチャの設定] ページを [インデックス設定] ツリービューと [インデックス設定] ノードの JSON コードとともに示しています。



Elasticsearch インデックス設定に関する詳細については、『*Multidomain MDM Version 10.4 Provisioning Tool Guide*』および『*Multidomain MDM Version 10.4 Configuration Guide*』を参照してください。

検索フィルタ表示

プロビジョニングツールを使用して、検索フィルタと、それらが Data Director の [検索] ページに表示される順序を設定します。特定のアプリケーションおよび関連するビジネスエンティティの検索フィルタと表示順序を設定できます。

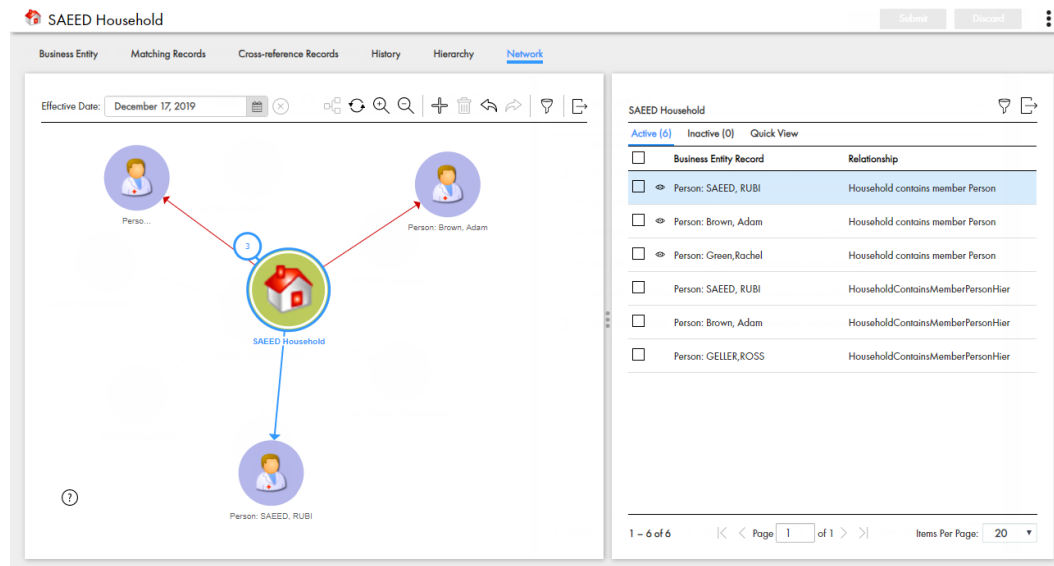
以前のバージョンからアップグレードする場合、フィルタは既存のアプリケーションの設定に表示されるのと同じ順序で表示されます。アップグレード後、検索フィルタの表示順序を変更することを選択できます。

検索の設定の詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティ、レコード、およびリレーションのアイコンと色

プロビジョニングツールでビジネスエンティティをモデル化する場合、Data Director でビジネスエンティティを表すために使用する色とアイコンを設定できます。ビジネスエンティティレコードを表すために使用するアイコンを設定することもできます。階層リレーションまたはネットワークリレーションを定義する場合、リレーションの色を定義できます。Data Director では、レコードを操作するとき、または【階層】ビューと【ネットワーク】ビューでリレーションを表示するときに、色とアイコンの設定が表示されます。

次の図は、SAEED Household のアイコンが表示された【ネットワーク】ビューを示しています。

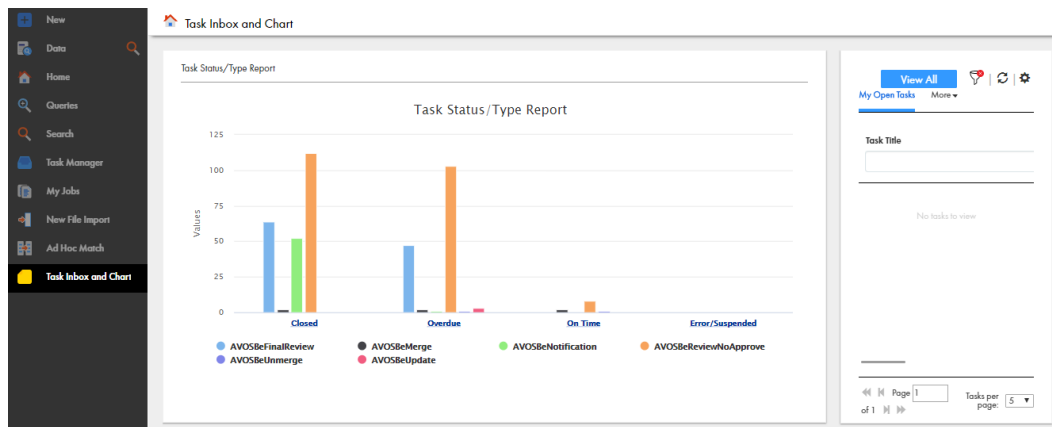


追加ページ

プロビジョニングツールを使用して、レイアウトデザイナーで追加ページのレイアウトを作成し、ユーザーが必要とする詳細情報へのアクセスを提供できます。例えば、ユーザーがより多くのチャートや外部 Web アプリケーションにアクセスするのを支援するために、プライマリコンポーネント、セカンダリコンポーネント、カスタムコンポーネントを含む追加ページを設計できます。

追加ページのレイアウトを作成する際は、目的とアクセスを指定します。例えば、マネージャユーザーロールのタスクインボックスとチャートを含む追加ページを設計できます。

次の図は、【タスクインボックス】コンポーネントと【チャート】コンポーネントが設定された Data Director の追加ページの例を示しています。



追加ページの作成と更新の詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティビューのハイパーリンク

Data Director では、ビジネスエンティティビューは、一部のタイプのテキストをハイパーリンクとして表示できます。ビジネスエンティティフィールドのテキストをハイパーリンクとして表示するには、プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティモデルのフィールドを設定します。

ビジネスエンティティフィールドの次のタイプのテキストは、ハイパーリンクとして表示できます。

- Web URL
- ファイル URI
- FTP リンク
- 電子メールアドレス

ハイパーリンクの設定の詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

インストーラの改良点

Multidomain MDM のインストーラが更新され、ユーザーエクスペリエンスが向上しています。

インストーラには、次の改良点が含まれています。

- インストールプロセスを簡略化するためにユーザーインターフェースのテキストを改訂
- 正しいフィールド値を理解して提供するのに役立つ、新規および改訂されたヘルプテキスト
- 新しいウィンドウ、**Hub コンソールのサーバー詳細の設定**。Hub コンソールが Hub サーバマシンに接続するために必要なサーバーの詳細を指定できます。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバーのプロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

`cmxserver.properties` ファイルで Hub サーバーのプロパティを設定します。

次の表に、10.4 で導入された Hub サーバーのプロパティを示します。

Hub サーバーのプロパティ	説明
cmx.server.be-import.task-limit	タスク承認ワークフローをトリガするためにユーザーがインポートできるレコードの最大数を指定します。例えば、プロパティを cmx.server.be-import.task-limit=10000 に設定した場合、ユーザーが最大 1 万件のレコードをインポートすると、タスク承認ワークフローがトリガされます。ユーザーが 1 万を超えるレコードをインポートしようとすると、タスク承認ワークフローはトリガされず、エラーが表示されます。
cmx.server.find-replace.record-limit	ユーザーが一括操作で検索および置換できるレコードの最大数を指定します。例えば、プロパティを cmx.server.find-replace.record-limit=10000 に設定した場合、ユーザーは最大 1 万件のレコードを検索および置換することができます。
cmx.server.find-replace.task-limit	タスク承認ワークフローをトリガする、置換されたレコードの最大数を指定します。例えば、プロパティを cmx.server.find-replace.task-limit=500 に設定した場合、ユーザーが最大 500 件のレコードを置換すると、タスク承認ワークフローがトリガされます。ユーザーが 500 をを超えるレコードを置換しようとすると、エラーが表示されます。
cmx.server.find-replace.entity-record-limit	ユーザーが [スマート検索] 画面から [検索と置換] 画面にコピーできるレコードの最大数を指定します。例えば、プロパティを cmx.server.find-replace.entity-record-limit=1000 に設定した場合、ユーザーは [スマート検索] 画面から [検索と置換] 画面に最大 1 万件のレコードをコピーできます。ユーザーが 1 万を超えるレコードをコピーしようとすると、エラーが表示されます。
cmx.file_import.job_group.ttl	MDM Hub がファイルインポートジョブグループを保存してから削除するまでの最大時間を指定します。値の後にサフィックスを追加する必要があります。サフィックスのオプションは、day、hour、min または sec です。例えば、プロパティを cmx.file_import.job_group.ttl=180day に設定した場合、インポートジョブグループは MDM Hub に 180 日間保存されます。
cmx.file_import.job_group_control.ttl	ファイルインポートジョブグループ管理ログを MDM Hub に保存してから削除するまでの最大時間を指定します。サフィックスのオプションは、day、hour、min または sec です。例えば、プロパティを cmx.file_import.job_group_control.ttl=30day に設定した場合、インポートジョブグループ管理ログは MDM Hub に 30 日間保存されます。

Hub サーバーのプロパティ	説明
cmx.file_import.mapping.temp.ttl	ファイルインポートマッピングを MDM Hub の一時ストレージに保存してから削除するまでの最大時間を指定します。サフィックスのオプションは、day、hour、min または sec です。例えば、プロパティを cmx.file_import.mapping.temp.ttl=20min に設定した場合、インポートジョブマッピングは MDM Hub に 20 分間保存されます。
cmx.file_import.mapping.system.ttl	ファイルインポートマッピングを MDM Hub の永続ストレージに保存してから削除するまでの最大時間を指定します。サフィックスのオプションは、day、hour、min または sec です。例えば、プロパティを cmx.file_import.mapping.system.ttl=20day に設定した場合、インポートジョブマッピングは MDM Hub に 20 日間保存されます。
activevos.jndi	オプション。手動で追加する必要があります。レポートサービスを ActiveVOS に接続するための JNDI ルックアップ文字列を指定します。デフォルトの JNDI ルックアップ文字列は java:/jdbc/ActiveVOS です。ActiveVOS EAR ファイルを編集して JNDI ルックアップ文字列をカスタマイズした場合は、このプロパティを使用してカスタム JNDI ルックアップ文字列を指定します。
cmx.match.training.confidence.threshold	オプション。プロビジョニングツールで一致ルールセットを作成するために必要な最小の一致信頼度スコアを指定します。
cmx.match.training.data.encoding	オプション。プロビジョニングツールでの一致トレーニングのエンコーディングを設定します。
cmx.server.hierarchy.max-search-depth	階層 REST API を使用して階層パスを検索するときに検索される最大深度。デフォルト値は 100 です。
cmx.server.hierarchy.max-search-width	階層 REST API を使用してエクスポートするときに含める検索される階層の最大幅。デフォルト値は 1000000 です。
com.informatica.mdm.bulk.relationship.changes.limit	一括タスク管理 REST API を使用するときの要求の変更の最大数。デフォルト値は 1000 です。
cmx.task.search.records.return	ユーザーがビジネスエンティティを使用して Data Director のタスクマネージャでタスクを検索するときの Elasticsearch ページネーションを制御します。デフォルトは 1000 です。
com.informatica.mdm.sifapi.xref.edit.sys0.only	管理ソースシステムを含むすべてのソースシステムを介して編集相互参照レコードを作成するかどうかを指定します。

Hub サーバーのプロパティ設定の詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 の設定ガイド*』を参照してください。

プロセスサーバーのプロパティ

プロセスサーバープロパティ `com.informatica.mdm.sifapi.xref.edit.sys0.only` を使用して、管理ソースシステムを含むすべてのソースシステムを介して編集相互参照レコードを作成するかどうかを指定します。
`cmxcleanse.properties` ファイルのプロパティを設定します。

プロセスサーバーのプロパティ設定の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.4 の設定ガイド*』を参照してください。

変更点（10.4）

Elasticsearch インストーラ

バージョン 10.4 では、Multidomain MDM インストーラパッケージに Elasticsearch インストーラは含まれません。Elasticsearch インストーラのサポート対象のバージョンを Elastic Web サイトからダウンロードする必要があります。

以前は、Elasticsearch インストーラは Multidomain MDM インストーラパッケージに含まれていました。

アプリケーションエディタ

バージョン 10.4 では、プロビジョニングツールの [アプリケーション] ページが拡張されました。検索結果を表示するように設定したビジネスエンティティビューが、ツリービューの **【検索構成】** に表示されます。ビジネスエンティティビューを検索結果用に設定した後、**【検索構成】** ノードを展開したり折りたたんだりできます。

以前は、検索結果を表示するように設定したすべてのビジネスエンティティビューが、[ツリービュー] パネルではなく、[プロパティ] パネルに一覧表示されていました。

アップグレードノート: 以前のバージョンからアップグレードする場合、検索結果を表示するように設定したビジネスエンティティビューは **【検索構成】** ノードの下に表示されます。

検索可能なフィールドオプション

バージョン 10.4 では、プロビジョニングツールには、ビジネスエンティティフィールドの **【検索可能】** フィールドオプション、**【言語】** と **【あいまい】** は含まれなくなりました。あいまい検索と検索文字列の言語を設定するには、Elasticsearch アナライザを設定します。

以前は、あいまい検索と検索文字列の言語を **【検索可能】** フィールドオプションとして設定できました。

【検索可能】 フィールドオプションと Elasticsearch アナライザの詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

検索クエリ結果オプション

バージョン 10.4 では、保留中のレコードを表示または非表示にするように検索クエリ結果を設定できます。

以前は、検索クエリ結果に表示される保留中のレコードを非表示にすることができませんでした。

検索クエリ結果の詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 の Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

Hub コンソールの起動

バージョン 10.4 では、Hub コンソールは JAR ファイルとしてクライアントデスクトップにダウンロードされます。Hub コンソールの URL とユーザーの資格情報は同じままです。

以前は、Hub コンソールは Java Web Start アプリケーションとしてクライアントデスクトップにダウンロードされていました。Oracle は Java Web Start をサポートしなくなりました。

通信プロトコル

バージョン 10.4 では、MDM 環境で EJB プロトコルはサポートされなくなりました。エンティティ 360 フレームワークに基づく Hub サーバーと Data Director の画面間の通信には、HTTP または HTTPS プロトコルを使用する必要があります。

通信プロトコルを設定するには、`-De360.connection.channel Java` オプションを使用します。

JVM の設定に関する詳細については、『*Multidomain MDM Version 10.4 Installation Guide*』および『*Multidomain MDM Version 10.4 Upgrade Guide*』を参照してください。

外部ビジネスエンティティサービス呼び出しと外部アプリケーション

バージョン 10.4 では、Multidomain MDM は証明書ベースの認証を使用して、外部ビジネスエンティティサービス呼び出しと外部アプリケーションを認証します。外部呼び出しと外部アプリケーション用に、信頼されたアプリケーションユーザーを設定する必要があります。また、外部呼び出しでは EJB はサポートされていません。代わりに、HTTP 通信プロトコルを使用する必要があります。

以前は、外部呼び出しと外部アプリケーションの認証にユーザー資格情報を使用し、EJB に基づいて外部呼び出しと外部アプリケーションを作成することができました。

アップグレードに関する注意事項: BESEExternalCall サンプルコードとリソースキットに含まれるライブラリを使用してカスタムビジネスエンティティサービスおよびカスタムアプリケーションを実装した場合は、外部呼び出しと外部アプリケーションをアップグレードしてください。

証明書ベースの認証とアプリケーションユーザーの詳細については、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 セキュリティガイド*』を参照してください。外部呼び出しと外部アプリケーションのアップグレードについては、『*Multidomain MDM バージョン 10.4 アップグレードガイド*』を参照してください。

マージ解除

バージョン 10.4 では、Multidomain MDM を設定して、管理ソースシステム以外のソースシステムの編集相互参照レコードを作成できます。これを設定した後は、すべてのソースシステムの PUT 呼び出し中に編集相互参照レコードが作成されます。ベースオブジェクトの他のすべての相互参照レコードが PUT 呼び出しの結果である編集相互参照レコードである場合、相互参照レコードはマージ解除されません。

以前は、編集相互参照レコードは、管理ソースシステムに対してのみ作成されていました。PUT 更新が管理ソースシステム以外のソースシステムからのものである場合、そのベースオブジェクトの他のすべての相互参照レコードが PUT 呼び出しの結果であったとしても、相互参照レコードはマージ解除されていました。これは、MDM が PUT 呼び出しの結果であるこれらの相互参照レコードを編集相互参照レコードとして識別しなかったためです。

Hub サーバーの廃止されたプロパティ

バージョン 10.4 では、Java Web Start と Solr エンジンに必要であった Hub サーバーのプロパティは廃止されました。

Java Web Start は Hub コンソールを起動する必要があるため、次の Hub サーバープロパティは廃止されました。

- cmx.appserver.jnlp.protocol
- cmx.web.console.session.download.timeout
- jnlp.initial-heap-size
- jnlp.max-heap-size

Solr はサポートされていないため、次の Hub サーバープロパティは廃止されました。

- cmx.ss.engine
- cmx.ss.dirtyIndex.disable

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

プロセスサーバーの廃止されたプロパティ

バージョン 10.4 では、Solr はサポートされていないため、次のプロセスサーバープロパティは廃止されました。

- cmx.ss.engine
- solr.allowAdminConsole
- pingSolrOnStartup
- zookeeper.tickTime
- search.provisioning.maxshards
- facet.infacount

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

REST API

バージョン 10.4 では、MDM Hub は Swagger を使用して、すべての REST Web サービスを URL およびパラメータとともに一覧表示します。

以前は、MDM Hub は Web アプリケーション記述言語 (WADL) を使用して、すべての REST URL およびパラメータを一覧表示していました。

REST API の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

パート II: バージョン 10.3

この部には、以下の章があります。

- [新機能と変更 \(10.3 HotFix 3\) , 32 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.3 HotFix 2\) , 36 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.3 HotFix 1\) , 40 ページ](#)
- [新機能と変更点 \(10.3\) , 47 ページ](#)

第 3 章

新機能と変更（10.3 HotFix 3）

この章では、以下の項目について説明します。

- [特記事項, 32 ページ](#)
- [新機能（10.3 HotFix 3）, 33 ページ](#)
- [変更内容（10.3 HotFix 3）, 33 ページ](#)

特記事項

サポートの変更

ここでは、バージョン 10.3 HotFix 3 のサポートの変更点について説明します。

Oracle Database 19c のサポート

Oracle Database 19c が Multidomain MDM 10.3 HotFix 3 でサポートされるようになりました。

Adobe Flash Player のサポート廃止

バージョン 10.3 HotFix 3 以降、サブジェクト領域を使用する Informatica Data Director に Adobe Flash Player は不要になりました。

Adobe Flash Player のサポートは廃止されています。Adobe は、2020 年末に Flash Player のサポートを終了すると発表しました。

サブジェクト領域を使用する Data Director の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 3 Data Director User Guide*』を参照してください。

Informatica Data Controls のサポート廃止

バージョン 10.2 HotFix 5 以降、Informatica Data Controls（IDC）のサポートは廃止されています。Informatica は、今後のリリースで IDC のサポートを削除する予定です。

Internet Explorer 11 の [階層] ビュー

バージョン 10.3 HotFix 3 以降、Internet Explorer 11 で [階層] ビューを開けなくなります。サポート対象ブラウザの詳細については、Informatica Network の製品可用性マトリックスを参照してください。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices/>

新機能（10.3 HotFix 3）

バンドルの移行

Data Director コンフィギュレーションマネージャでは、バンドルの移行により、サブジェクト領域に属し、ビジネスエンティティレコードに移行されるレコードのメタデータがローカライズされます。

バンドルの移行の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 3 Data Director Implementation Guide*』を参照してください。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバーのプロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmx.e360.submit_all

オプション。Data Director から Hub サーバーにすべてのフィールドを検証のために送信し、ビジネスエンティティレコードのすべてのフィールドに対する編集内容を保存する必要があるかどうかを指定します。デフォルトは false です。

cmxserver.properties ファイルで Hub サーバーのプロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 3 Hub 設定ガイド*』を参照してください。

変更内容（10.3 HotFix 3）

Elasticsearch インストーラ

バージョン 10.3 HotFix 3 以降、Elasticsearch インストーラのサポート対象のバージョンを Elastic Web サイトからダウンロードする必要があります。

以前は、Elasticsearch インストーラは Multidomain MDM インストーラパッケージに含まれていました。

Elasticsearch 6.8.6 のサポート

バージョン 10.3 HotFix 3 以降、検索処理に Elasticsearch バージョン 6.8.6 が必要になります。

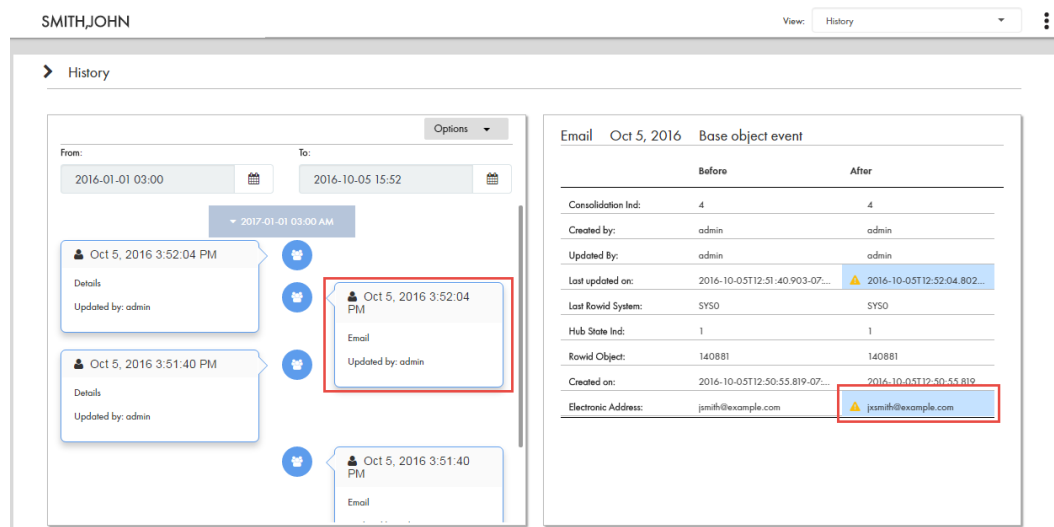
Elastic Search 6.8.6 のアップグレードの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 3 Upgrade Guide*』を参照してください。

履歴ビュー

バージョン 10.3 HotFix 3 以降、Data Director には【履歴】ビュー用の新しいユーザーインターフェースが組み込まれ、Adobe Flash Player は不要になります。【履歴】ビューを使用して、レコードに行われたデータ変更を表示できます。【履歴】ビューでは、各データ変更がイベントとして表示されます。

【履歴】ビューには、リレーションレコードの履歴は表示されません。

次の図に、Data Director の【履歴】ビューの新しいユーザーインターフェースを示します。



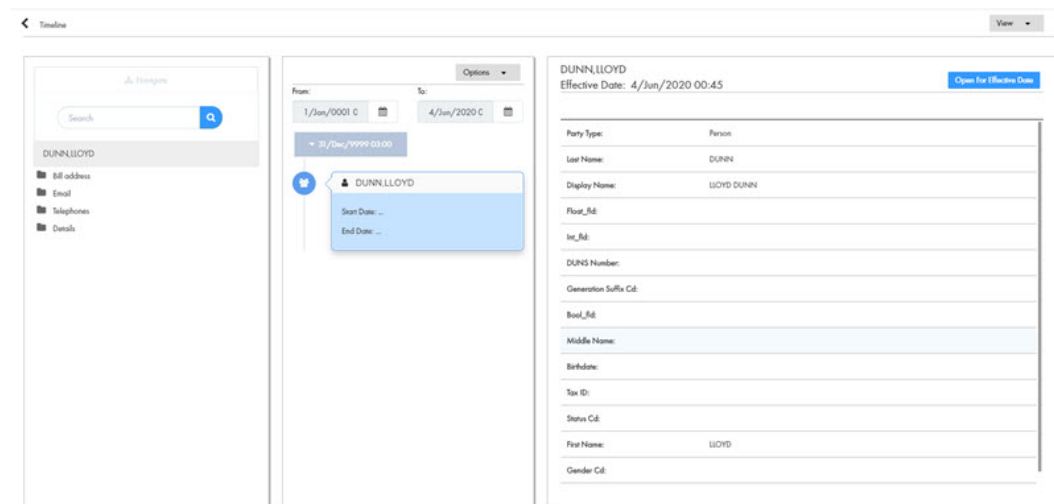
【履歴】ビューの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 3 Data Director User Guide*』を参照してください。

有効期間ビュー

バージョン 10.3 HotFix 3 以降、Data Director には【有効期間】ビュー用の新しいユーザーインターフェースが組み込まれ、Adobe Flash Player は不要になります。【有効期間】ビューを使用して、有効な日付を持つデータを調査できます。

【有効期間】ビューに、リレーションのタイムラインは表示されません。リレーションのタイムラインは、【階層】ビューのネットワークレイアウトに表示されます。

次の図に、Data Director の【有効期間】ビューの新しいユーザーインターフェースを示します。



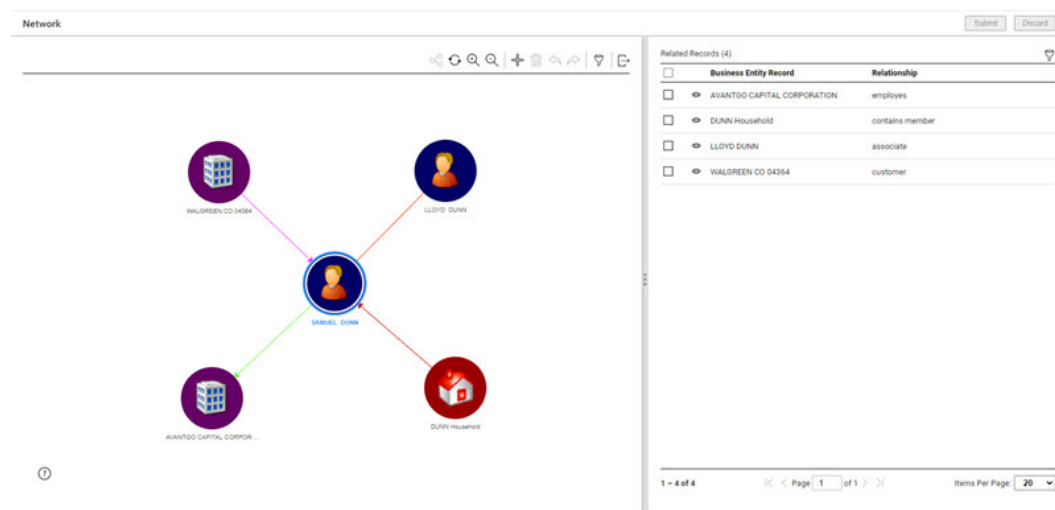
【有効期間】ビューの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 3 Data Director User Guide*』を参照してください。

[階層] ビュー

バージョン 10.3 HotFix 3 では、[階層] ビューでレコードを開くと、**ネットワーク**レイアウトにレコードとリレーションが表示されます。**ネットワーク**レイアウトのユーザーインターフェースに、Adobe Flash Player は不要となりました。

ネットワークレイアウトを使用して、レコードのネットワークリレーションを表示、作成、管理します。有効日のネットワーク内のリレーションを表示することやネットワーク内のリレーションの表示/非表示を切り替えることができます。また、ネットワークグラフをエクスポートすることもできます。レコードとリレーションのレイアウトを変更することはできません。

次の図は、Data Director での [階層] ビューを示しています。



ネットワークレイアウトの詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 3 Data Director User Guide*』を参照してください。

第 4 章

新機能と変更（10.3 HotFix 2）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.3 HotFix 2）](#), 36 ページ
- [変更内容（10.3 HotFix 2）](#), 37 ページ

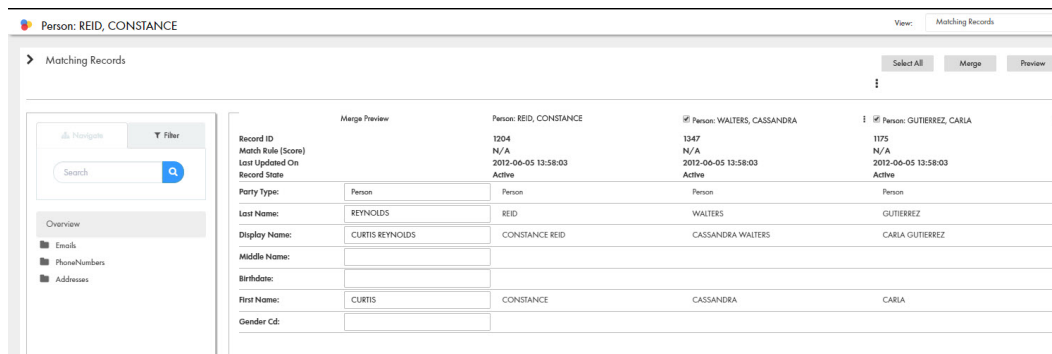
新機能（10.3 HotFix 2）

ここでは、バージョン 10.3 HotFix 2 の新しい機能について説明します。

【一致したレコード】ビューでの複数レコードの選択

【一致したレコード】ビューで、**【すべて選択】** ボタンをクリックして、複数レコードを選択できます。

次の図は、【一致したレコード】ビューの**【すべて選択】** ボタンを示しています。

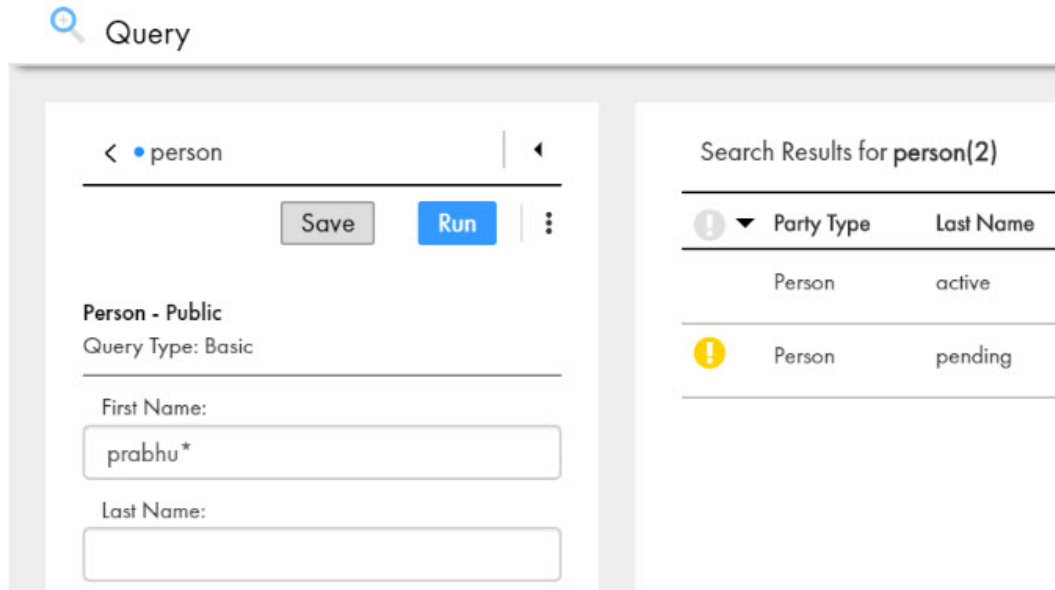


以前は、【一致したレコード】ビューでは、一度に1つのレコードしか選択できませんでした。

検索結果での保留中レコードアイコン

Data Director (Entity 360) で検索を実行すると、検索結果にアクティブなレコードと保留中のレコードが表示されます。保留中のすべてのレコードの横にアイコンが表示されます。保留中のすべてのレコードをソートできます。

次の図は、保留中ステータスのレコードの横に表示される保留中レコードアイコンを示しています。



以前は、Data Director (Entity 360) にはすべてのアクティブなレコードと保留中のレコードが一緒に表示され、レコードをソートすることができませんでした。

Informatica Address Doctor バージョン 5.16

Informatica MDM Multidomain Edition は Informatica AddressDoctor バージョン 5.16 をサポートしています。

変更内容 (10.3 HotFix 2)

改良されたデータベース読み取りクレンジング関数

データベース読み取りクレンジング関数は、プロセスサーバーがマルチスレッド環境で実行されるように設定されている場合、同時データマッピングをサポートします。

特殊文字を使用したクエリ検索

特殊文字を使用したクエリ検索を実行できます。検索結果には、特殊文字を含むすべてのレコードが表示されます。クエリ検索文字列の先頭、末尾、途中に特殊文字を使用します。例えば、James を検索したい場合は、Ja\$@!、または!\$%ES と指定します。

Oracle データベースへの SSL 接続

Oracle データベースへの接続は Secure Socket Layer (SSL) でセキュリティ保護されています。

c_repos_database.connect_url テーブルで、次の接続 URL を設定します。

```
jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCPS)(HOST=localhost)(PORT=2484))
(CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=orcl)))
```

以前のリリースでは、c_repos_database.connect_url テーブルに次の接続 URL を設定していました:

```
jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl
```

。

スマート検索での最新の検索エンティティの保存

ユーザーログインセッションでスマート検索を使用してレコードをフィルタ処理し、ビジネスエンティティを選択できます。新しいユーザーセッションにログインすると、検索結果に前回のログインセッションのフィルタ値が表示されます。

Java 仮想マシンの設定

Data Director および Entity 360 アプリケーションを MDM Hub サーバーに接続するために、次の Java オプションを設定して Java 仮想マシン (JVM) を構成します。

完全修飾ドメイン名

ご使用の環境が HTTPS 通信プロトコルを使用し、セキュリティ証明書が完全修飾ドメイン名 (FQDN) に対して発行されている場合は、以下の Java オプションを設定して Java 仮想マシン (JVM) を構成します。

-De360.mdm.host

セキュリティ証明書に表示される FQDN を指定します。

接続プロトコル

Entity 360 アプリケーションを MDM Hub サーバーに接続するために、次の Java オプションを設定して Java 仮想マシン (JVM) を構成します。

-De360.connection.channel

Entity 360 アプリケーションが MDM Hub サーバーと通信するために使用する通信プロトコルを指定します。使用する通信プロトコルが EJB、HTTP、HTTPS のいずれであるかを指定します。デフォルトは、*-De360.connection.channel=http* です。サポートするアプリケーションサーバーホストプロパティ *-De360.connection.channel=http* を設定していることを確認してください。サポートするアプリケーションサーバーホストプロパティ *-De360.mdm.host* とアプリケーションサーバーポートプロパティ *-De360.mdm.port* をデフォルト値に設定していることを確認してください。

次のアプリケーションサーバーホストおよびポートの Java オプションを設定する必要があります。

-De360.mdm.host

Entity 360 アプリケーションサーバーホスト。Java オプションによって使用されるホストを指定します。

-De360.mdm.port

Entity 360 アプリケーションサーバーポート。競合を避けるために、JVM のデフォルトポートを使用することをお勧めします。

JVM の設定に関する詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 2 Installation Guide*』および『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 2 Upgrade Guide*』を参照してください。

データ暗号化

バージョン 10.3 HotFix 2 から、暗号化された一致カラムをあいまい一致およびあいまい検索操作に安全に含めることができるようになりました。これらの操作に必要な一致フィールドをデータ暗号化プロパティファイルで設定します。

以前は、暗号化された一致カラムはあいまい一致操作には含まれていませんでした。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

第 5 章

新機能と変更（10.3 HotFix 1）

この章では、以下の項目について説明します。

- [Oracle Database 18c のサポート, 40 ページ](#)
- [Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.1 のサポート, 40 ページ](#)
- [IBM WebSphere バージョン 9.0 Fix Pack 10 のサポート, 41 ページ](#)
- [JBoss 用 Red Hat OpenJDK 8 のサポート, 41 ページ](#)
- [Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5 のサポート, 41 ページ](#)
- [日付形式, 41 ページ](#)
- [ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのコピー, 42 ページ](#)
- [カスタムタスクアクションメッセージ, 43 ページ](#)
- [プロビジョニングツールパフォーマンスの向上, 43 ページ](#)
- [メッセージトリガの拡張, 43 ページ](#)
- [保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張, 43 ページ](#)
- [Hub サーバーのプロパティ, 44 ページ](#)
- [グローバルプロパティ, 44 ページ](#)
- [Solr を使用したスマート検索用 Java 仮想マシンの設定（JBoss 向け）, 45 ページ](#)
- [変更内容（10.3 HotFix 1）, 45 ページ](#)

Oracle Database 18c のサポート

Oracle Database 18c は Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 でサポートされています。

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.1 のサポート

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform（EAP）7.1 で Multidomain MDM を展開する必要があります。Red Hat for JBoss EAP 6.x のメンテナンスサポートの終了日は 2019 年 6 月です。Red Hat からサポート、バグフィックス、セキュリティパッチを継続的に受けるには、JBoss EAP 7.1 および Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 にアップグレードすることをお勧めします。Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 はバージョン 7.1 よりも前の JBoss EAP をサポートしていません。

IBM WebSphere バージョン 9.0 Fix Pack 10 のサポート

IBM WebSphere アプリケーションサーバーバージョン 9.0 Fix Pack 10 で Multidomain MDM を展開する必要があります。Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 は、バージョン 9.0 Fix Pack 10 よりも前の WebSphere をサポートしていません。

JBoss 用 Red Hat OpenJDK 8 のサポート

JBoss アプリケーションサーバー環境の Red Hat OpenJDK 8 で Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 を実行できます。

Red Hat OpenJDK 8 でサポートされているプラットフォームの詳細については、製品可用性マトリックス (PAM) を参照してください。PAM には <https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> からアクセスできます。

Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.5 のサポート

Informatica ActiveVOS 9.2.4.5 は Multidomain MDM 10.3 HotFix 1 でサポートされています。

日付形式

プロビジョニングツールでアプリケーションエディタを使用すると、Data Director アプリケーションで 사용되는デフォルトの日付形式を設定できます。また、ビジネスエンティティおよび参照エンティティモデルの特

定の日付フィールドで、表示形式を「日付」または「日時」に設定することもできます。設定した日付形式はすべてのレコードビューに表示されます。

次の図に、「アプリケーション」ページの「デフォルトの表示形式」パネルの日付形式フィールドを示します。

The screenshot shows the 'Default Display Formats' panel in the Informatica MDM application. The panel is titled 'Default Display Formats' and has 'Apply' and 'Discard' buttons. It contains a list of options for defining date and time formats, including Year, Month, Day, Hour, Minutes, Seconds, AM/PM, Timezone offset, and Week number. Below the list, there are two sections: 'Date Format' and 'Datetime Format'. The 'Date Format' section shows a text input field with 'yyyy-MM-dd' and a sample '2019-02-12'. The 'Datetime Format' section shows a text input field with 'yyyy-MM-dd HH:mm' and a sample '2019-02-12 17:43'.

これまでデフォルトの日付形式を設定するには、デフォルトの日付形式プロパティを含む bundleE360.properties ファイルを作成していました。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのコピー

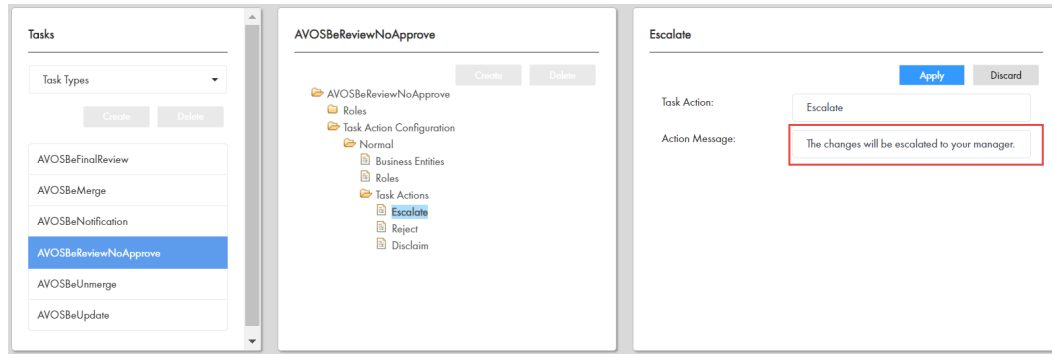
ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューをコピーして、一意の名前で保存することができます。コピーでは、元のビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのモデル全体が継承されます。コピーでは、必要に応じて、モデルに対するフィールドの追加、編集、および削除を行うことができます。

ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューのコピーに関する詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

カスタムタスクアクションメッセージ

Data Director でタスクがトリガされたときに表示されるメッセージをカスタマイズできます。また、メッセージをローカライズできます。

次の図に、カスタムメッセージを含む【アクションメッセージ】フィールドを示します。



カスタムタスクアクションメッセージの設定およびローカライズに関する詳細については、『*Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

プロビジョニングツールパフォーマンスの向上

応答時間を改善すると、プロビジョニングツールのパフォーマンスが向上します。プロビジョニングツールの変更は保存され、1分以内にパブリッシュされます。

メッセージトリガの拡張

相互参照レコードがリストアされると、MDM Hub は JMS メッセージキューに格納されたメッセージをトリガできます。相互参照レコードをリストアするイベントのメッセージトリガを設定するには、スキーママネージャを使用します。【メッセージトリガ】ページの【イベント】セクションで、【リストア】を選択します。これは、このセクションに含まれる新しいイベントです。

詳細については、『*MDM Multidomain Edition バージョン 10.3 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張

保存ハンドラのユーザーイグジットでは、getChangedChildren メソッドを使用して、指定したベースオブジェクト内の変更または追加された子レコードまたは孫レコードを返すことができます。

ユーザーイグジットは、追加、削除、または更新されたすべてのレコードを返します。ユーザーイグジットによって返される変更のタイプを選択できます。例えば、ユーザーイグジットが削除した子レコードと更新した子レコードを組み合わせで返すことができます。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバープロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルの Hub サーバープロパティを設定します。

com.siperian.dsapp.mde.common.idd2cocs.Many2ManyChild.name.version

手動で追加する必要があります。10.3 よりも前のバージョンからアップグレードした場合、MDM 管理者がビジネスエンティティスキーマを生成すると、一部の子レベルのサブジェクト領域名の大文字が小文字に変更されます。大文字と小文字を維持するには、プロパティを 10.2 に設定します。

cmx.server.put.autopopulate.missing.user.columns.bo.list

手動で追加する必要があります。ベースオブジェクトのカラムの [NULL 可能] プロパティを無効にした場合は、プロパティを設定します。

カラムの [NULL 可能] プロパティを無効にした場合は、Data Director または SIF PUT の操作中にレコードが更新されると、更新したフィールドの値のみを使用して相互参照レコードが作成されます。null 以外が指定されたフィールドを含む他のすべての相互参照レコードのフィールドには、null 値が使用されます。レコードの最善データ (BVT) の計算中、null 以外が指定されたフィールドで null 値を使用すると、エラーが発生します。

BVT の計算で null 以外が指定されたフィールドが考慮されるようにするには、プロパティ値を [NULL 可能] プロパティが無効にされたカラムを使用するベースオブジェクトの名前のカンマ区切りリストに設定します。プロパティが設定されると、MDM Hub は、関連付けられたベースオブジェクトの値を含む相互参照レコードの null 値を更新します。これにより、BVT 計算中、null 以外が指定されたフィールドで null 値は使用されません。

cmx.server.enrichcopager.thread_pool

手動で追加する必要があります。ReadCO 操作を同時に実行できるように、スレッドプールから EnrichCoPager プロパティが使用するスレッドの数を設定します。デフォルトは 30 です。スレッドの数を 1 に設定すると、プロパティは無効になります。

cmx.server.enrichcopager.min_rec_for_multithreading

手動で追加する必要があります。EnrichCoPager プロパティがマルチスレッドを使用するまでに返すレコードの最小数を設定します。デフォルトは 2 です。

Hub サーバープロパティの設定の詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Configuration Guide*』を参照してください。

グローバルプロパティ

Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を、次のグローバルプロパティで制御することができます。

deleteMovedRelInExplorerView

階層マネージャのエクスプローラビューで新しいリレーションを作成するときに古いリレーションを削除するかどうかを決定します。リレーションに終了日を指定するには、false に設定します。

詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Informatica Data Director Implementation Guide*』を参照してください。

Solr を使用したスマート検索用 Java 仮想マシンの設定 (JBoss 向け)

JBoss 環境で展開した MDM Hub で Solr を使用してスマート検索を設定する場合は、スマート検索用に Java オプションを指定して、Java 仮想マシン (JVM) を設定します。

スマート検索では次の Java オプションを設定します。

-Dmdm.ps.zk.node

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。ZooKeeper サーバーに指定するプロセスサーバーの JVM でこの Java オプションを設定します。true に設定します。

-Dmdm.ps.search.node

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。検索処理が有効で、Solr サーバーとして機能するプロセスサーバーの JVM でこの Java オプションを設定します。true に設定します。

-Dsearch.service.port

Solr を使用してスマート検索を実行する場合は必須です。異なる JVM ではなく、同一マシンに複数のプロセスサーバーをインストールし、このマシンのすべてのプロセスサーバーでスマート検索を有効にする場合は必須です。この Java オプションは、検索サービスの JVM で使用されるポートを指定します。ポートの競合を回避するには、1 つのプロセスサーバーで JVM のデフォルトポートを使用し、この Java オプションを残りのプロセスサーバーで関連するポート番号に設定します。

JVM の設定に関する詳細については、『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Installation Guide*』および『*Informatica Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Upgrade Guide*』を参照してください。

変更内容 (10.3 HotFix 1)

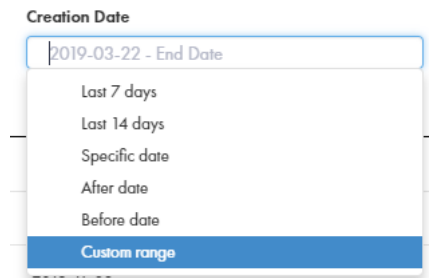
タスクインボックス

バージョン 10.3 HotFix 1 以降、作成日に基づいてタスクインボックスのタスクをフィルタリングできます。

リストから次の作成日オプションのいずれかを選択できます。

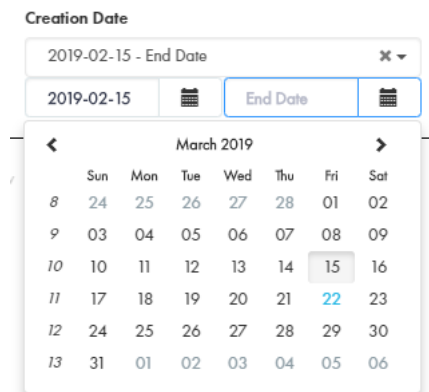
- 最近 7 日
- 最近 14 日間
- 特定の日付
- 日付以降
- 日付以前
- カスタム範囲

次の図に、【作成日】 フィルタオプションを示します。



日付範囲に基づいてタスクをフィルタリングするには、【カスタム範囲】 オプションを使用します。

次の図に、範囲の開始日を 2019 年 2 月 15 日に設定した【カスタム範囲】 フィルタオプションを示します。



これまでは、【作成日】 カラムのフィルタオプションは無効でした。

関連レコードコンポーネント

バージョン 10.3 HotFix 1 以降のプロビジョニングツールでは、関連レコード（編集モード）と関連レコード（ビューモード）の両方が単一の関連レコードコンポーネントに置き換えられます。新しい関連レコードコンポーネントでは、レコードをビューモードと編集モードのどちらで開くかを設定できます。また、リレーションの方向を引き継ぐかどうかも設定できます。

これまでは、使用するコンポーネントを選択する必要がありました。関連レコード（編集モード）コンポーネントのみが設定可能でした。関連レコード（ビューモード）コンポーネントがデフォルトでしたが、設定できないため、リレーションの方向は無視されていました。

関連レコードコンポーネントの設定に関する詳細については、『*Multidomain MDM Version 10.3 HotFix 1 Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

リソースキット変更

レコードキットの AssignUsersToDatabase スクリプトで、ユーザー名の大文字がサポートされるようになりました。

これまでのツールでは、小文字のみが使用されていました。

第 6 章

新機能と変更点（10.3）

この章では、以下の項目について説明します。

- [MDM Multidomain Edition は Multidomain MDM に, 47 ページ](#)
- [ビジネスエンティティを使用する Data Director の新機能, 47 ページ](#)
- [サブジェクト領域を使用する Data Director の新機能, 55 ページ](#)
- [バージョン 10.3 で導入された Hub サーバーのプロパティ, 57 ページ](#)
- [バージョン 10.3 で導入されたプロセスサーバーのプロパティ, 58 ページ](#)
- [グローバルプロパティ, 59 ページ](#)
- [変更点（10.3）, 59 ページ](#)

MDM Multidomain Edition は Multidomain MDM に

バージョン 10.3 から、製品名が *Informatica Multidomain MDM* に変更されました。

ビジネスエンティティを使用する Data Director の新機能

Multidomain MDM のこのリリースでは、ビジネスエンティティを使用する Data Director 向けに次の新機能が導入されました。

ビジネスエンティティの検索とクエリ

Data Director を設定して、ユーザーがクエリまたは検索を使用して、ビジネスエンティティレコードを見つけるようにできます。また、レコードビューに手動でレコードを追加するために、クエリまたは検索の使用を設定することもできます。プロビジョニングツールを使用して Data Director を設定します。

クエリ

次のタスクを実行するためにクエリを使用できるようになりました。

- クエリを使用したレコードの検索。クエリを作成、保存、および編集できます。
- ワイルドカードを使用したレコードの検索。

- あいまい検索または完全一致検索の実行。クエリの結果で大文字と小文字を区別するかどうかを設定できます。
- クエリ値を含むレコードを検索するための、基本クエリまたは拡張クエリの設定。基本クエリでは、レコードの検索にシンプルテキスト比較を使用します。拡張クエリでは、レコードの検索に一致する論理と一致が有効な属性を使用します。
- クエリ結果に含まれる現在のカラムまたはすべてのカラムの CSV ファイルへのエクスポート。
- クエリ結果のカスタマイズによる、目的のカラムの表示。
- プロビジョニングツールを使用した、クエリ結果の表示に使用するビューの設定。

詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドと Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

検索

次のタスクを実行するために検索を使用できるようになりました。

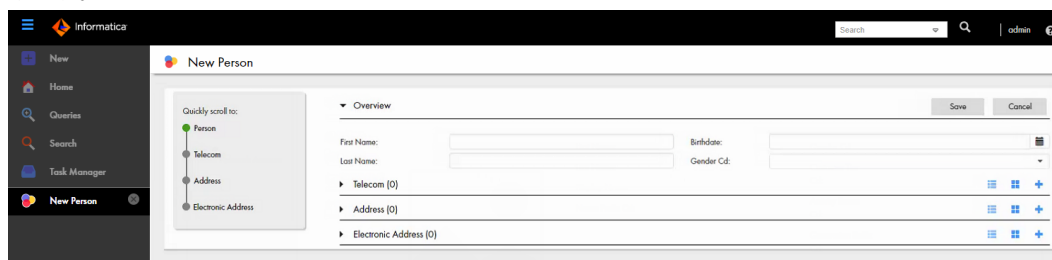
- ワイルドカードを使用したレコードの検索。
- あいまい検索または完全一致検索の実行。完全一致検索の結果では、大文字と小文字は区別されません。
- 検索結果に含まれる現在のカラムまたはすべてのカラムの CSV ファイルへのエクスポート。
- 検索結果のカスタマイズによる、目的のカラムの表示。
- プロビジョニングツールを使用した、検索結果の表示に使用するビューの設定。

詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドと Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

更新後の Data Director のルックアンドフィール

Data Director は、垂直タブが表示されたナビゲーションバーを使用します。**【新規】** タブを使用してレコードを追加できるようになりました。タスクインボックス、タスクマネージャ、およびレコードビューが整理されています。

次の図は、エンティティタブが表示された状態の、更新後のナビゲーションバーのルックアンドフィールを示します。

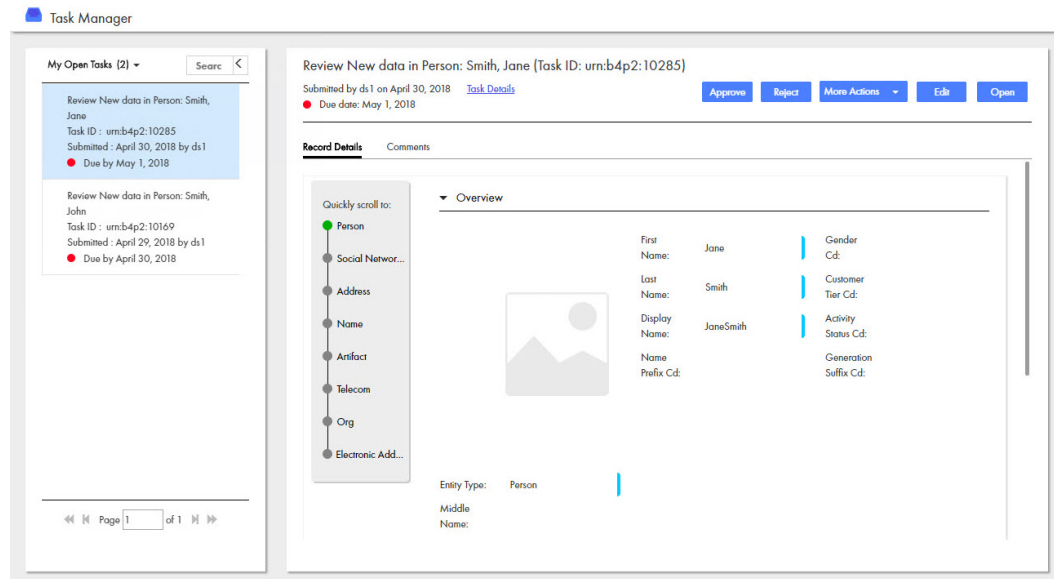


以前は、Data Director には水平タブが表示されていました。アプリケーションヘッダの**【作成】**メニューを使用していました。

タスクマネージャ

タスクパネルと確認パネルが並んで表示されるため、タスクを簡単に管理および表示できます。また、確認パネルに**【コメント】**タブが表示されます。**【コメント】**タブでは、タスクに関するすべてのコメントを表示できます。

次の図に、タスクマネージャの更新後のルックアンドフィールを示します。

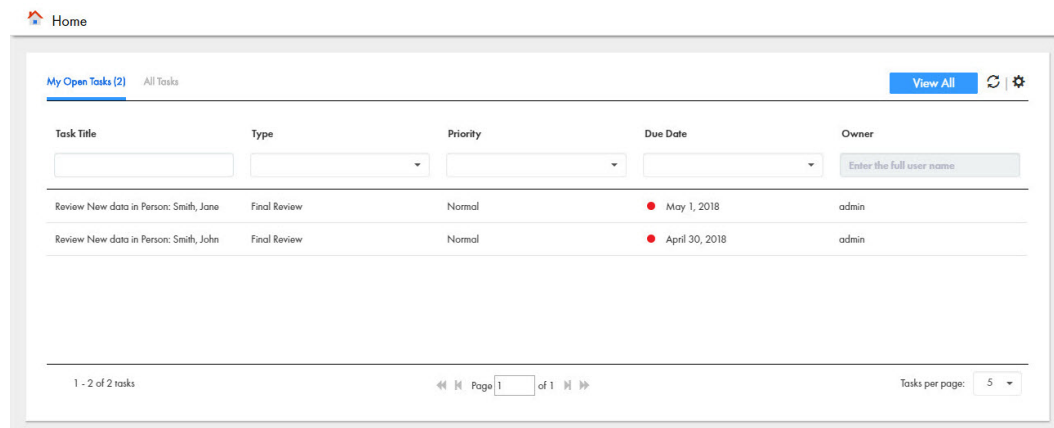


以前は、タスクパネルが確認パネルの上に表示されていました。また、**[タスクの詳細]** ダイアログボックスの**[すべてのコメント]** ボックスにコメントが表示されていました。

タスクインボックス

タスクインボックスは、作業対象のタスクをフィルタして検索できるように簡素化されています。

次の図に、更新後のタスクインボックスのルックアンドフィールを示します。



詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 Data Director ユーザーガイドを参照してください。

Data Director のローカライゼーション

ビジネスエンティティを使用する Data Director のユーザーインターフェース要素を、サポートされる任意の言語で表示できます。MDM 管理者は、メタデータ、ラベル、エラーメッセージ、およびルックアップテーブルをローカライズできます。Data Director では、次の言語がサポートされます。

- 英語 (US)
- 英語 (UK)
- ポルトガル語

- フランス語
- スペイン語
- ドイツ語
- ロシア語
- 日本語
- 中国語
- 韓国語

メタデータのローカライズ

Data Director ユーザーインターフェースのメタデータ要素をローカライズして、選択した言語を表示できます。メタデータ要素の例として、メニュー名、フィールド名、タスク、およびビジネスエンティティ名があります。

メタデータをローカライズするには、プロビジョニングツールで *besMetadata.properties* という zip ファイルをダウンロードし、表示する言語向けの *bundle.properties* ファイルを編集します。例えば、フランス語へのローカリゼーションの場合は、*bundle_fr.properties* ファイルを編集します。タスクアクションやタスクタイプをローカライズするには、*besMetadata.properties* ファイルの値を手動で編集する必要があります。この際、*taskaction.<アクション名>*の形式を使用します。

ラベルとエラーメッセージのローカライズ

Data Director のラベルとエラーメッセージをローカライズして、選択した言語を表示できます。ラベルやエラーメッセージをローカライズするには、リソースツールキットに含まれる *LocalizationSetup* スクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、MDM Hub のインストールパッケージに含まれています。

ラベルやエラーメッセージのローカライズの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

ルックアップテーブルのローカライズ

すべてのルックアップテーブルでは、ローカリゼーションがサポートされます。例えば、性別、国、および状態のルックアップテーブルは、対応する性別、国、および状態のローカライズ版ルックアップテーブルにマッピングされます。

メタデータ、ラベル、エラーメッセージ、およびルックアップテーブルのローカライズの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

レコードビューのレイアウト

レコードビューのカスタムレイアウトを設計して、**【一致したレコード】** ビュー、**【階層】** ビュー、および **【履歴】** ビューを置き換えることができます。また、確認タスク、マージタスク、およびマージ解除タスクのレイアウトも置き換えられます。

カスタムビューを設計するには、プロビジョニングツールを使用します。レコードビューのレイアウトを作成して、名前、目的、およびカスタムビューへのアクセスを許可するユーザーを指定します。次に、レイアウトにコンポーネントを追加して、カスタムビューを構築します。

Data Director で、カスタムビューは **【表示】** リストに表示されます。タスクのカスタムビューは、Data Director のタスクマネージャに表示されます。

重複レコードのマージやレコード履歴の参照用のカスタムレコードビューでは、すべてのビジネスエンティティを表示するか、ビジネスエンティティに含まれるフィールドのサブセットであるビジネスエンティティビューを表示するかを選択できます。以前は、これらのレコードビューはデフォルトビューであり、すべてのビジネスエンティティが表示されていました。

ビジネスエンティティ向けに、**【一致したレコード】** の基本ビューを設定するか、**【一致したレコード】** の詳細ビューを設定するかを選択できます。**【一致したレコード】** の基本ビューでは、重複する親レコードのみをマ-

ことができます。【一致したレコード】の詳細ビューでは、重複する親レコードと子レコードをマージできます。自分のアプリケーション用に、これらの【一致したレコード】ビューのいずれかまたは両方を構成することが可能です。

以前は、デフォルトのエンティティビューを置き換えるためにのみ、カスタムレコードビューのレイアウトを設計できました。

レコードビューのレイアウト設計の詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

デフォルトのレコードビューの非表示

プロビジョニングツールで Data Director アプリケーションを設定して、【表示】リストにデフォルトのレコードビューが表示されないようにすることができます。

デフォルトのレコードビューは、ユーザーが Data Director のレコードを表示および管理できるようにするために、デフォルトで有効化されています。カスタムビューを設計した後は、デフォルトのレコードビューを非表示にすることを選択して、エンドユーザーの混乱を避けることができます。

以前は、Data Director でデフォルトのレコードビューを非表示にすることはできませんでした。

注: Multidomain MDM をアップグレードした場合、デフォルト状態の【表示】リストにはデフォルトのレコードビューが表示されています。

デフォルトのレコードビューの詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

類似するレコードコンポーネント

類似するレコードコンポーネントを使用して、新しいレコードを作成する時に類似するレコードを検索できます。類似するレコードコンポーネントへのレコードの表示に、検索またはクエリを使用するかどうかを決定できます。完全一致のクエリまたはあいまい一致のクエリを設定できます。

以前は、類似するレコードコンポーネントには、検索のみを設定できました。

類似するレコードコンポーネントの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

【一致するレコード】ビュー

【一致したレコード】ビューの機能が拡張されて、重複レコードの識別と解決が容易になりました。

【一致したレコード】ビューで、次の機能が拡張されました。

以下の作業を実行できるようになりました。

- 【一致したレコード】の基本ビューまたは【一致したレコード】の詳細ビューを使用した重複の解決。【一致したレコード】の基本ビューでは、重複する親レコードのみをマージできます。【一致したレコード】の詳細ビューでは、重複する親レコードと子レコードをマージできます。【一致したレコード】ビューのいずれかまたは両方を、Data Director に設定できます。
- 重複の識別に役立つ可能性のある信頼スコアなどの情報の表示と、マージ用に選択したレコードのみの表示。
- 一致したレコードの一致ルールの詳細の表示。
- 一致したレコードに追加されたブレッドクラムを使用した、マージするレコードの親の識別。
- 重複レコードが【一致したレコード】ビューに表示されない場合は、レコードをビューに手動で追加することが可能。追加するレコードを見つけるには、検索またはクエリを使用します。

- マージしないレコードや重複ではないレコードの削除。
- 自動マージのレコードのキューへの追加。
- 正しいと思われる値を昇格またはオーバーライドすることによる、最善データの完成。
- レコードのマージ前に、マージ結果のプレビューが可能。

詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドを参照してください。

[相互参照レコード] ビュー

[相互参照レコード] ビューには、相互参照レコードの親レコードを識別するために役立つブレッドクラムが含まれています。ブレッドクラムトレイルに示されている最後のレコードが、**[相互参照レコード]** ビューに表示されたレコードのすぐ上の親です。

タスクマネージャ

ActiveVOS abAdmin ロールが割り当てられていると、タスクマネージャでタスクのワークフローの詳細を表示できます。また、自分のユーザーグループの別のユーザーに属するタスクの割り当てをプールに戻して、別のユーザーが引き受けられるようにすることもできます。

タスクマネージャの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドを参照してください。

マージタスク

マージタスクの確認担当者は、確認プロセス中にマージタスクを更新できます。

確認のパネルで、確認担当者は、**[一致したレコード]** ビューで行える次のアクションを実行できます。

- マージする重複レコードの追加。
- マージしないレコードの削除。
- フィールドに正しい値を選択または入力することによる、最善データの完成。

マージタスクの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドで、確認プロセスへの参加に関する章を参照してください。

レコードへのファイルの添付

レコードを追加または編集するときに、レコードに子レコードとしてファイルを添付できます。プロビジョニングツールを使用して、データ型が FileAttachment のビジネスエンティティフィールドを設定します。このビジネスエンティティフィールドを使用して、Data Director アプリケーションでファイルを添付できます。

FileAttachment データ型の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

タスクへのファイルの添付

タスクにファイルを添付できます。添付をサポートするようにタスクが設定されている場合は、表示可能なすべてのタスクにファイルを添付できます。タスクに添付されたファイルはタスクの詳細に表示され、タスクを表示できるユーザーは添付ファイルを表示できます。

タスクへのファイル添付の詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドを参照してください。

タスクのコメントと添付

ユーザーがワークフローをトリガしたりタスクアクションを実行したりする際に、コメントや添付の追加を必須にするかどうかを設定できます。コメントや添付の設定を構成するには、プロビジョニングツールを使用します。

以前は、ユーザーがタスクにコメントを追加することは可能でしたが、ユーザーによるコメント追加を必須にすることはできませんでした。

ワークフローのトリガ

ユーザーにコメント、添付、またはその両方を求めるために、ワークフローのトリガを設定することができます。例えば、ユーザーがマージ解除タスクをトリガする際にコメントを追加しなければならないようにするために、マージ解除タスクのトリガを設定できます。

タスクタイプ

ユーザーにコメント、添付、またはその両方を求めるために、タスクタイプを設定することができます。また、**[タスクの詳細]** ダイアログボックスからのファイル添付をユーザーに許可できます。例えば、確認担当者がビジネスエンティティレコードに対して提示された変更を拒否する場合に、担当者にコメントと添付の追加を義務付けるように、確認タスクを設定することができます。確認担当者がタスクの詳細を編集する際にファイルを添付できるように、マージタスクを設定できます。

タスクのコメントと添付の詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

ビジネスエンティティのセキュリティ

MDM Hub のユーザーロールを適用して、ビジネスエンティティに基づいてレコードへのアクセスを管理できます。また、データフィルタを使用して、フィールドの値とユーザーロールに基づいてレコードへのアクセスを管理することもできます。フィールドに追加できる値を制限する場合は、フィールドに対してデフォルト値のリストを作成できます。

セキュリティオプションの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

ユーザーロールとビジネスエンティティ

ビジネスエンティティは、ルートベースオブジェクトと子ベースオブジェクトを持つデータ構造です。MDM Hub コンソールでベースオブジェクトとその他のリソースにユーザーロール権限を割り当てると、Data Director のレコードビューに権限が継承されます。例えば、ベースオブジェクトのユーザーロールに読み取り権限を付与した場合、そのユーザーは、ビジネスエンティティレコードに同じアクセス権を持つことになります。

ユーザーロールに権限をすでに割り当てている場合は、ビジネスエンティティ上でセキュリティを有効化するために他の作業をする必要はありません。アップグレードの後、Data Director はユーザーロール権限の結果を自動的に反映します。

ユーザーロールと REST API

API が機能拡張されて、MDM Hub ユーザーロールがサポートされるようになりました。すべてのケースで、ユーザーはレコードの読み取り権限を持っている必要があります。これは、他の権限が処理される前に必要です。ユーザーロール権限はビジネスエンティティによって継承されます。そうすると、フィールドの値に基づくレコードへのアクセスを制限するために、フィールドフィルタを使用できます。

次の REST API は、オブジェクトとリレーションの<operations>要素内のユーザーロール権限を返します。

- GetMetadata

- ListMetadata

セキュリティの改善点の Data Director への影響の詳細については、[「ビジネスエンティティのセキュリティ」\(ページ 53\)](#)を参照してください。

セキュリティフィルタおよびデータフィルタの API の機能拡張の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のビジネスエンティティサービスガイドを参照してください。

ユーザーロールが割り当てられたデータフィルタ

ビジネスエンティティのフィールドにデータフィルタを作成し、そこにユーザーロールを割り当てることができます。レコード内のフィールド値に基づいて、ユーザーはレコード全体を表示できる場合とできない場合があります。また、ノードにフィルタを作成して、ノードが空の場合に親レコードへのアクセス権をユーザーが持つかどうかを決めることができます。

注: この機能は、サブジェクト領域に対するデータセキュリティフィルタに似ていますが、ビジネスエンティティ向けのデータフィルタでは大文字と小文字が区別されません。

ユーザーロールが割り当てられたタスク

ビジネスエンティティ用に作成したワークフロータスクに、ユーザーロール特権を割り当てます。ユーザーは、ロール特権を持つタスクに対してアクションを実行できます。例えば、ユーザーがマージタスクでアクションを実行できるのは、そのユーザーのロールにマージ特権が含まれる場合のみです。

ビジネスエンティティのデフォルト値

フィールドにデフォルト値を追加できます。Data Director では、フィールドに単一のデフォルト値が表示されます。デフォルト値のリストは、ドロップダウンリストとして表示されます。

セキュリティ向けのユーザーインターフェースの改善点

MDM 管理者がユーザーロール特権を作成すると、その特権は Data Director ユーザーインターフェースに影響を与えます。例えば、あるビジネスエンティティへのアクセス権を持たないユーザーは、そのビジネスエンティティまたはそこに属するレコードを表示できません。

次の表に、ビジネスエンティティのロール特権の概要と、特権が Data Director ユーザーインターフェースの動作にどのように影響するかを示します。

ビジネスエンティティのアクション	Data Director の動作
レコードの作成	【新規】 メニューでは、レコードを作成する権限のあるビジネスエンティティのタイプのみ表示できます。
レコードの読み取り	読み取り権限のあるビジネスエンティティのレコードを表示できます。他のレコードにはアクセスできません。
レコードの更新	レコードビューでは、ビジネスエンティティレコードの編集権限がある場合に、 【編集】 ボタンが有効になります。それ以外の場合、 【編集】 ボタンは表示されません。
レコードの削除	ビジネスエンティティレコードの削除権限がある場合、 【削除】 アイコンが有効になります。

ビジネスエンティティのアクション	Data Director の動作
レコードの検索	スマート検索を使用してビジネスエンティティを検索する場合、検索フィルタと検索結果には表示権限があるビジネスエンティティのタイプのみ表示されます。
レコードのマージおよびマージ解除	レコードのマージおよびマージ解除権限がある場合、 【一致したレコード】 ビューの各レコードの上部にある 【マージ】 ボタンとチェックボックスが有効になります。このビューにレコードを追加すると、検索フィルタと検索結果には表示権限があるビジネスエンティティのレコードのみ表示されます。

ビジネスエンティティビューは、ビジネスエンティティと同じロール特権を継承します。例えば、ビジネスエンティティビューに重要なフィールドを含めることを選択した場合、そのレコードに対するロール特権を持つユーザーだけがそれを表示または編集できます。ユーザーロール特権がビジネスエンティティやビジネスエンティティビューにどのように変換されるかの詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

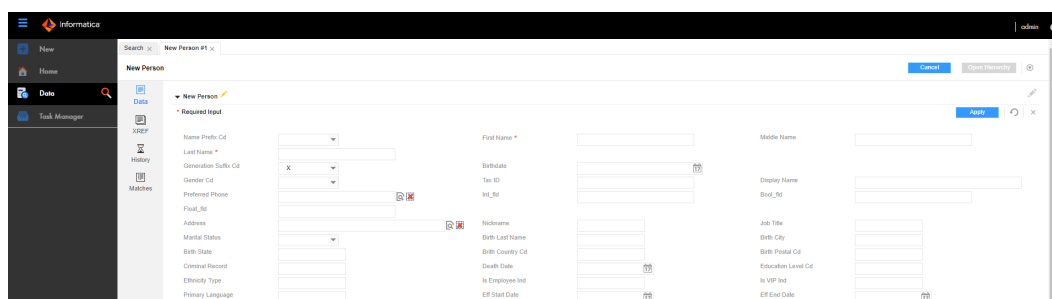
サブジェクト領域を使用する Data Director の新機能

Multidomain MDM のこのリリースでは、サブジェクト領域を使用する Data Director 向けに次の新機能が導入されました。

更新後の Data Director のルックアンドフィール

Data Director は、垂直タブが表示されたナビゲーションバーを使用します。**【新規】** タブを使用してレコードを追加できるようになりました。タスクインボックスとタスクマネージャは合理化されています。

次の図は、**【データ】** タブが表示された状態の、更新後のナビゲーションバーのルックアンドフィールを示します。

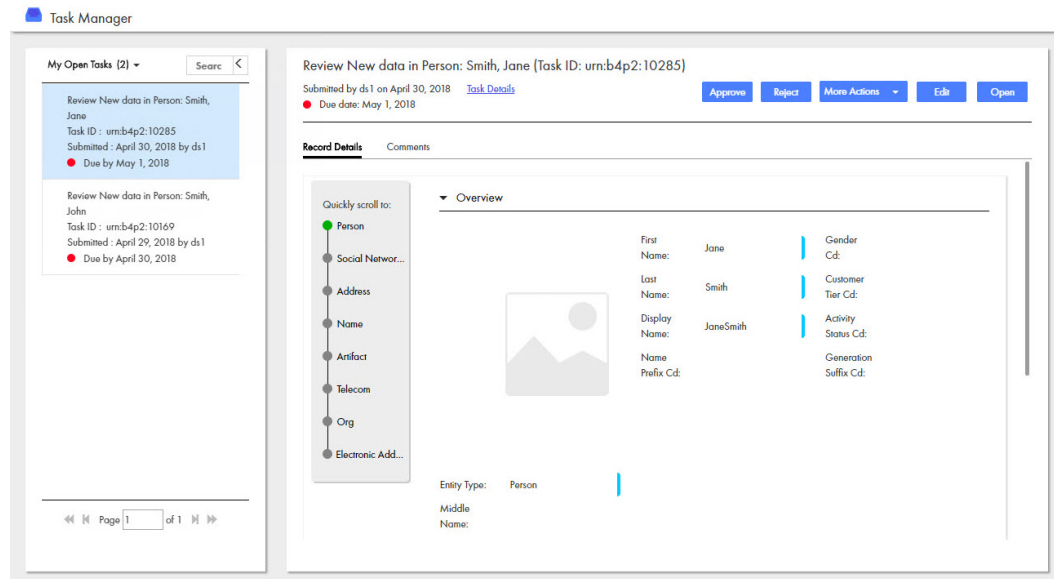


以前は、Data Director には水平タブが表示されていました。アプリケーションヘッダの**【作成】**メニューを使用していました。

タスクマネージャ

タスクパネルと確認パネルが並んで表示されるため、タスクを簡単に管理および表示できます。また、確認パネルに**【コメント】**タブが表示されます。**【コメント】**タブでは、タスクに関するすべてのコメントを表示できます。

次の図に、タスクマネージャの更新後のルックアンドフィールを示します。

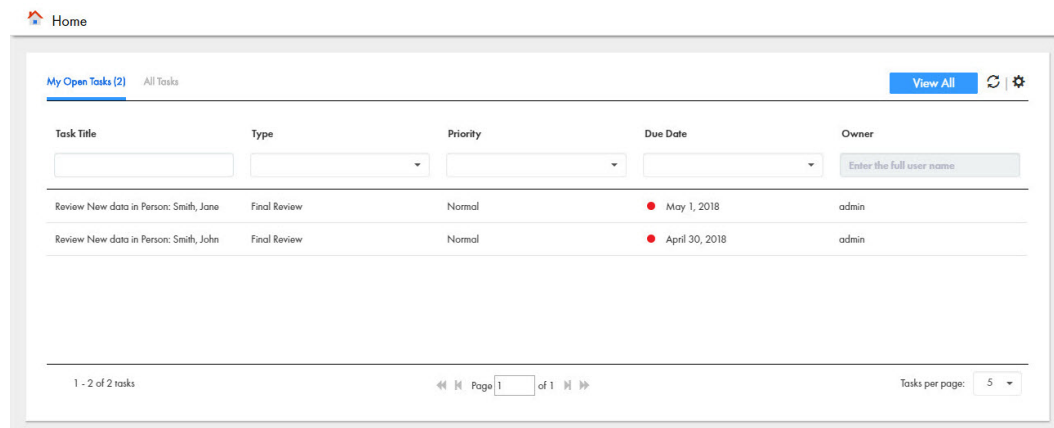


以前は、タスクパネルが確認パネルの上に表示されていました。また、**【タスクの詳細】** ダイアログボックスの**【すべてのコメント】** ボックスにコメントが表示されていました。

タスクインボックス

タスクインボックスは、作業対象のタスクをフィルタして検索できるように簡素化されています。

次の図に、更新後のタスクインボックスのルックアンドフィールを示します。



詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 Data Director ユーザーガイドを参照してください。

タスクへのファイルの添付

タスクにファイルを添付できます。添付をサポートするようにタスクが設定されている場合は、表示可能なすべてのタスクにファイルを添付できます。タスクに添付されたファイルはタスクの詳細に表示され、タスクを表示できるユーザーは添付ファイルを表示できます。

タスクへのファイル添付の詳細については、Informatica Multidomain MDM バージョン 10.3 の Data Director ユーザーガイドを参照してください。

バージョン 10.3 で導入された Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバーのプロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルで Hub サーバーのプロパティを設定します。

cmx.server.selective.bvt.enabled

デフォルトでは、Put または Cleanse Put 呼び出しは、SIF 要求で指定されたフィールドのみを更新するのではなく、レコード内のすべてのフィールドに BVT 計算を適用します。MDM Hub が SIF 要求の一部であるフィールドにのみ BVT 計算を適用するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

cmx.file.allowed_file_extensions

Data Director アプリケーションでレコードやタスクに添付することのできるファイルの拡張子を一覧表示します。デフォルトでは、.pdf ファイルおよび.jpg ファイルを添付できます。拡張子を複数指定する場合は、各値をカンマで区切ります。

例: cmx.file.allowed_file_extensions=pdf,jpg,png,txt,zip,exe.

cmx.file.max_file_size_mb

Data Director アプリケーションで添付できるファイルのサイズ制限を指定します。

注: サブジェクト領域データモデルを使用する Data Director アプリケーションには 20 MB の静的サイズ制限があります。20 MB より大きいサイズ制限を指定しても、サブジェクト領域データモデルを使用する Data Director アプリケーションでは 20 MB の静的サイズ制限が維持されます。ビジネスエンティティデータモデルを使用する Data Director アプリケーションでは、cmx.file.max_file_size_mb プロパティで定義されているサイズ制限に維持されます。

cmx.server.attachment.temp.ttl_minutes

ファイルが TEMP ストレージに作成されてから期限が切れるまでの時間（分）。ファイルの期限が切れないようにするには 0 に設定します。デフォルトは 60 です。

cmx.ss.engine

Elasticsearch エンジンを検索に使用する場合は必須です。このプロパティは手動で追加して es に設定します。

ex.max.conn.per.host

ホストに接続する Elasticsearch ノードの最大数を設定します。ホスト上の Elasticsearch クラスターノードの数に設定します。

ex.max.threads

Apache Elasticsearch クラスターでノードごとに非同期ノンブロッキングレシーバを使用するスレッドの最大数を設定します。デフォルトは 1 です。

この値を変更するのは、Informatica グローバルカスタマサポートから提案された場合のみにしてください。

es.index.refresh.interval

「スマート検索データの初期インデックス処理」バッチジョブが実行された後に Elasticsearch がデータへの変更をコミットする間隔（秒）を設定します。そのデータを検索できるようになるのは、この時間間隔の後です。デフォルトは 30 です。

このプロパティは、初回のインデックス処理でインデックス処理量が大きくなった場合に影響します。この値を変更するのは、Informatica グローバルカスタマサポートから提案された場合のみにしてください。

ssl.keyStore

アプリケーションサーバーの HTTPS ポートを使用して Hub サーバーを設定する場合は必須です。プロパティを手動で追加します。キーストアファイルの絶対パスおよびファイル名。

ssl.keyStore.password

アプリケーションサーバーの HTTPS ポートを使用して Hub サーバーを設定する場合は必須です。プロパティを手動で追加します。キーストアファイルのプレーンテキストパスワード。

ssl.trustStore

アプリケーションサーバーの HTTPS ポートを使用して Hub サーバーを設定する場合は必須です。プロパティを手動で追加します。トラストストアファイルの絶対パスおよびファイル名。

ssl.trustStore.password

アプリケーションサーバーの HTTPS ポートを使用して Hub サーバーを設定する場合は必須です。プロパティを手動で追加します。トラストストアファイルのプレーンテキストパスワード。

Hub サーバーのプロパティ設定の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の設定ガイドを参照してください。

バージョン 10.3 で導入されたプロセスサーバーのプロパティ

次のプロセスサーバーのプロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

Elasticsearch を使用した検索に関連するプロセスサーバーのプロパティは、cmxcleanse.properties ファイルで設定できます。

cmx.ss.engine

Elasticsearch エンジンを検索に使用する場合は必須です。このプロパティは手動で追加して es に設定します。

ex.max.conn.per.host

ホストに接続する Elasticsearch ノードの最大数を設定します。ホスト上の Elasticsearch クラスタノードの数に設定します。

ex.max.conn.per.host

ホストに接続する Elasticsearch ノードの最大数を設定します。ホスト上の Elasticsearch クラスタノードの数に設定します。

es.index.refresh.interval

「スマート検索データの初期インデックス処理」バッチジョブが実行された後に Elasticsearch がデータへの変更をコミットする間隔（秒）を設定します。そのデータを検索できるようになるのは、この時間間隔の後です。デフォルトは 30 です。

このプロパティは、初回のインデックス処理でインデックス処理量が大きくなった場合に影響します。この値を変更するのは、Informatica グローバルカスタマサポートから提案された場合のみにしてください。

プロセスサーバーのプロパティ設定の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 の設定ガイドを参照してください。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して、Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御できます。

minModalWidth

【検索】 ウィンドウの最小幅をピクセル単位で決定します。デフォルトは 1100 です。

変更点（10.3）

用語の変更

このバージョンでは、次の用語が変更されました。

新しい用語	説明	以前の用語	場所
ホームページ	タスクインボックスやその他のコンポーネントが含まれる、カスタマイズ可能なダッシュボード。	スタートページ	Data Director
レコード	ビジネスエンティティのインスタンス。例えば、「John Smith」はレコードですが、「個人」はビジネスエンティティです。	ビジネスエンティティ	Data Director
レコードビュー	Data Director の 1 つ以上のレコードの任意のビュー。	エンティティビュー	Data Director、プロビジョニングツール
レコードビューのレイアウト	Data Director でレコードやタスクを表示および管理するために設計できる、Data Director ユーザーインターフェースのレイアウト。	エンティティビューのレイアウト	プロビジョニングツール
検索	Data Director のキーワード検索機能。レコードを検索するには、検索ボックスにキーワードを入力します。	スマート検索	Data Director、プロビジョニングツール
【新規】 タブ	レコードの作成に使用できる、ナビゲーションバーのタブ。	【作成】 メニューまたは【データビューで作成】メニュー	Data Director

Apache Solr を使用した検索の廃止

バージョン 10.3 から、Apache Solr を使用した Data Director の検索機能は廃止されます。今後のリリースでは、Solr を使用した検索がサポートされなくなります。Data Director でレコードを見つけるために、Elasticsearch を使用した検索を使用できます。Elasticsearch はオープンソースの、フルテキスト検索エンジンです。

MDM Hub インストーラと一緒にパッケージに含まれている、Elasticsearch を使用した検索を設定する必要があります。Elasticsearch を単一ノードクラスタまたはマルチノードクラスタとして設定して、分散インデックス処理と検索を提供できます。スムーズな移行を成功させるために、Apache Solr を使用した検索でサポートされていた API が Elasticsearch を使用した検索でもサポートされます。

タスクインボックス

バージョン 10.3 から、タスクインボックスに表示するカラムとフィルタを設定できるようになりました。プロビジョニングツールを使用して、タスクインボックス用のカラムとフィルタを設定します。

タスクインボックスには、次のフィルタが含まれます。

- 開いているタスク
- 終了したタスク
- すべてのタスク
- すべての引き受け解除したタスク
- すべての終了したタスク
- すべての引き受け処理したタスク

以前は、タスクインボックス用にカラムやフィルタを設定できず、タスクインボックスのフィルタには、マイタスクと使用可能なタスクのみが含まれていました。

タスクインボックスの設定の詳細については、Multidomain MDM 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

タスクマネージャ

バージョン 10.3 から、タスクマネージャのタスクパネルに表示するフィールドを設定できるようになりました。プロビジョニングツールを使用して、タスクパネル向けのフィールドを設定します。

タスクパネルには、次のフィルタが含まれます。

- 開いているタスク
- 終了したタスク
- すべてのタスク
- すべての引き受け解除したタスク
- すべての終了したタスク
- すべての引き受け処理したタスク

以前は、タスクパネルのフィルタには、マイタスクと使用可能なタスクのみが含まれていました。

タスクマネージャの設定の詳細については、Multidomain MDM バージョン 10.3 のプロビジョニングツールガイドを参照してください。

リソースキット

バージョン 10.3 から、次の項目が Resource Kit ディレクトリと *Multidomain MDM* のリソースキットガイドから削除されました。

- WsCodeGenPlugin サンプル
- Jaspersoft テンプレート